



第2次山梨市観光振興計画



計画期間：令和4年度から令和8年度



令和4年3月
山梨市

はじめに

山梨市は、甲府盆地の東部に位置し、都心から約100km圏という地理的優位性を有しており、秩父多摩甲斐国立公園内にある北部の山々、西沢渓谷に代表される豊かな自然、桃やぶどうなどの果樹、貴重な文化財、湯量豊富な温泉など多くの観光資源にあふれています。



本市においては、平成29年3月に「おもてなしの心をおみやげに」を基本理念とした山梨市観光振興計画を策定し、観光による流入人口を増大させ、活力のある地域社会をつくるための施策展開を進めてまいりました。

一方、令和2年以降、世界的に拡大している新型コロナウイルス感染症は、観光関連産業を中心に地域経済に深刻な影響を与え、さらには人々の生活様式を大きく変化させ、観光を取り巻く状況はコロナ前とは一変しております。本市における影響も例外なく深刻なものとなっておりますが、本市の魅力を最大限に活用し、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた取り組みを進めていく必要があります。

今回策定した、「第2次山梨市観光振興計画」では、第1次計画でも取り組んできた、果樹を軸にした観光メニューの開発や観光基盤の整備に取り組むと共に、豊かな自然・アウトドア・ワイン等の多様なニーズに対応した魅力的な山梨市のブランディングと情報発信に一層力をいれて取り組んでまいります。

今後におきましては、市民や関連団体、民間事業者、観光協会、行政などが協働して取り組むことのできる体制を強固なものにしていくとともに、さらなる観光振興の実現に向けて施策を推進してまいりたいと考えております。

結びに、新たな計画の策定にあたり、大変貴重なご意見やご提言をいただいた、市民・民間事業者・観光関連団体・第2次山梨市観光振興計画策定委員会など多くの皆様より多大なご尽力を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

令和4年3月

山梨市長 高木 晴雄

目次

第1章	計画の策定にあたり	1
1	計画の背景	1
2	国・山梨県・山梨市の動向	1
3	計画の目的	3
4	計画の期間	3
第2章	山梨市観光の現状	4
1	山梨市における観光客入込客数と観光消費額の推移	4
2	RESAS から見る山梨市の観光	6
3	山梨市の観光資源	10
4	山梨市の主な観光資源一覧	15
5	山梨市の主なイベント一覧	16
第3章	前計画の検証	17
1	【基本方針1】地域資源を活用した観光メニューの提供	17
2	【基本方針2】ターゲットに応じた観光情報の提供	20
3	【基本方針3】観光基盤の整備・拡充	23
4	【基本方針4】東京オリンピック/パラリンピックを見据えたインバウンド観光への対応	25
5	【基本方針5】推進体制の構築	27
第4章	アンケート調査結果	28
1	アンケート調査概要	28
2	アンケート調査結果	29
第5章	山梨市の観光資源分析	36
1	SWOTによる山梨市の観光資源分析	36
2	クロスSWOT分析による方向性の導出	37
第6章	山梨市の観光の課題	38
第7章	施策体系と具体的施策	41
1	施策体系	41
2	具体的施策	42
第8章	評価指標	49
1	山梨市観光入込客数	49
2	山梨市観光消費額	50
3	外国人宿泊者数	51
4	山梨市月別観光入込客数（12月から4月の平均値）	52

5	SNS フォロワー数	53
第9章	計画運営方針及び運営方法	54
第10章	参考資料	56
1	第2次山梨市観光振興計画策定委員名簿	56
2	山梨市観光振興推進会議委員名簿	57
3	策定経緯	58

第1章 計画の策定にあたり

1 計画の背景

山梨市は、自然・文化・歴史・果樹など、豊富な観光資源に恵まれた山梨県内有数の観光地です。

本市では「おもてなしの心をおみやげに」を基本理念に、平成29年3月に「山梨市観光振興計画」を策定し、観光振興を図るための施策の実施に取り組んできました。

近年の日本を取り巻く観光の状況は、訪日外国人旅行者数やその消費額の増加に伴い、日本経済における観光の存在感が高まってきていると言えます。

しかしながら、令和2年1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、多くの国において政府による入国制限や海外渡航禁止等の措置が講じられたことにより、日本に限らず、全世界的に旅行者の往来が大幅に減少しました。このため、観光需要は大きく減少し、特に地域経済には大きな影響が生じました。

こうした中で、国では、感染拡大を防止し早期に収束させるとともに、雇用の維持・事業の継続・生活の下支えを当面の間最優先に全力で取り組むべく、様々な対策を講じてきました。「新型コロナウイルス感染症に関する緊急対応策」（令和2年2月）、「新型コロナウイルス感染症に関する緊急対応策—第2弾—」（令和2年3月）、「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」（令和2年4月）等の対策に加え、感染拡大防止と社会経済活動の両立を図るため、「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」（令和2年3月）等の法的対策が講じられました。国のこうした法的対策に関わらず、国内観光産業は未だ回復の兆しを見せていません。

2 国・山梨県・山梨市の動向

(1) 国の動向

国では令和2年1月以降、観光回復の大前提となる感染拡大防止策を徹底することを最重要課題として様々な観光振興施策に取り組んできました。

当面の回復を担う日本人国内旅行の需要を喚起するとともに、ワーケーション等の普及により、旅行市場を拡大しつつ、旅行需要を分散させ、混雑や密を低減させるため、感染拡大防止策の徹底に合わせて「Go To トラベル事業」や「国の支援によるホテル・旅館・観光街等の再生」を推進してきました。

また新型コロナウイルス感染症収束後の本格的なインバウンド回復に向けて、より一層日本の魅力を高めるべく、回復までの期間を活用した「観光産業の再生」、「先端技術も活用

した観光地等の受入環境整備」、「国内外の観光客を惹きつける滞在コンテンツの充実等の施策を進めてきました。

今後は、国内外の感染状況等を見極めた上で、インバウンドの段階的復活に向けた取組みを進めて行くとしています。

(2)山梨県の動向

県では、県内において新型コロナウイルス感染症患者が発生して以来、県民生活及びその基盤となる地域経済の「防衛と感染収束後における反転攻勢」として、国・市町村と連携しつつ、「山梨県新型コロナウイルス感染症関係総合対策」を講じてきました。

中小企業に対しては、きめ細かな資金繰り対策として「信用保証料の半減による企業支援の拡充」、事業活動の縮小や雇用への対応として「中小企業等の販売促進の取組みへの補助」、観光需要の喚起対策として「観光資源を組み合わせた付加価値の高い宿泊旅行商品の販売支援」等の施策を行ってきました。

また「山梨全体で安心・信頼を提供」することをテーマとして「グリーン・ゾーン認証制度」を制定し、感染症に強い事業環境づくりを強力に後押しするとともに、利用者の安心・信頼の獲得に努めてきました。このグリーン・ゾーン認証制度は、山梨モデルとして全国的にも注目され、展開が図られる制度となりました。

さらに、新型コロナウイルス感染症拡大で大きな被害を受けた本県観光産業の回復を支援するため「やまなしグリーン・ゾーン認証」を受けた宿泊施設を対象に、県民に対する宿泊料金の割引を支援する事業として「県民限定やまなしグリーン・ゾーン宿泊割り」を実施してきました。今後も新型コロナウイルス感染症対策の徹底を前提に、経済施策を講じていくこととされています。

(3)山梨市の動向

新型コロナウイルス感染症拡大が、本市の観光・経済へ及ぼす影響は甚大であり、国や県の動向を見極めながら、市としても回復を図る施策を講じてきました。

本市において観光産業は市内経済の柱の一つとなっており、新型コロナウイルス感染症収束後の観光産業の回復を図るため、国や県の取組みや方向性と足並みを合わせながら、市民や観光客に対して安全・安心を届ける万全な感染症対策と、市内観光振興を両立させてきました。

本市では現時点で把握できる統計データやアンケート調査結果などをもとに、新型コロナウイルス感染症の山梨市観光への影響を整理し「山梨市観光振興計画」の検証を行いました。

3 計画の目的

本計画は、第2次山梨市まちづくり総合計画の5つのビジョンの一つである「四季折々の色あいを大切に、にぎわいのある山梨市」の実現に向け、本市の観光の方向性を定めるために策定する計画です。

山梨市の観光の現状を統計データやアンケート調査結果から把握するとともに、観光資源の「強み」「弱み」を改めて整理し、山梨市の観光産業が今後向かうべき方向性を明確にし、新型コロナウイルス感染症収束後の山梨市観光産業のあり方を模索することにより、停滞している市内観光を活性化し、活力ある山梨市を作ることを目指します。

4 計画の期間

本計画の計画期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。計画における施策の進捗状況は毎年度検証を行い、必要な場合は計画期間中であっても施策や評価指標の見直しを行います。

平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度	令和 7年度	令和 8年度
山梨市観光振興計画 (平成29年度～令和3年度)					第2次山梨市観光振興計画 (令和4年度～令和8年度)				

第2章 山梨市観光の現状

1 山梨市における観光客入込客数と観光消費額の推移

(1) 山梨市における観光客入込客数の推移

山梨市の観光入込客数は、平成30年が滞在客数、対前年比ともに最も多くなっています。令和元年には前年からやや減少し、令和2年にはコロナ禍の影響を受け大幅に減少しました。

月別の推移でみると、冬期に当たる12月から4月の数値が平均を下回っていることが分かります。

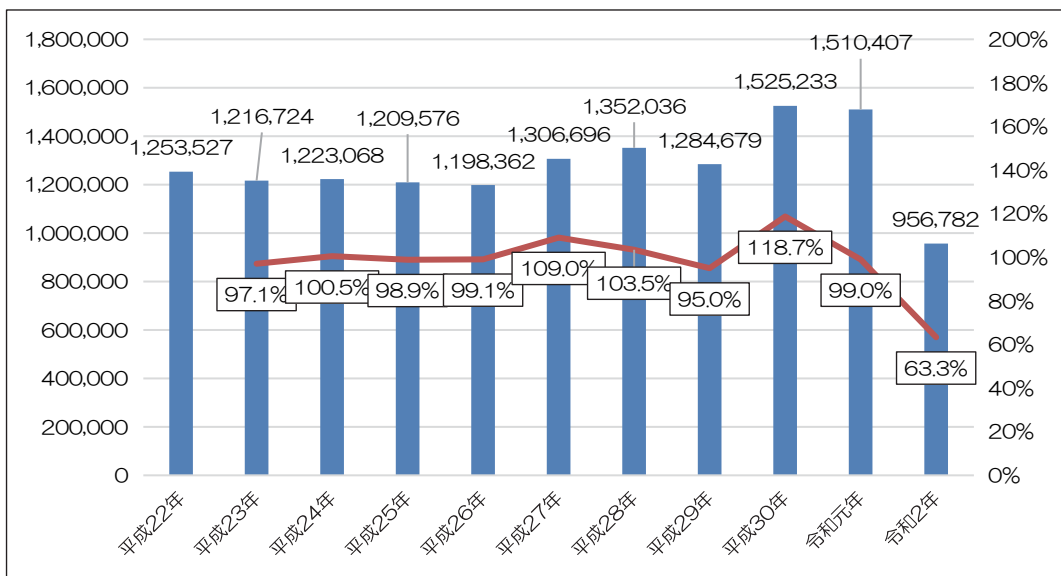


図1 山梨市における観光客入込客数の推移

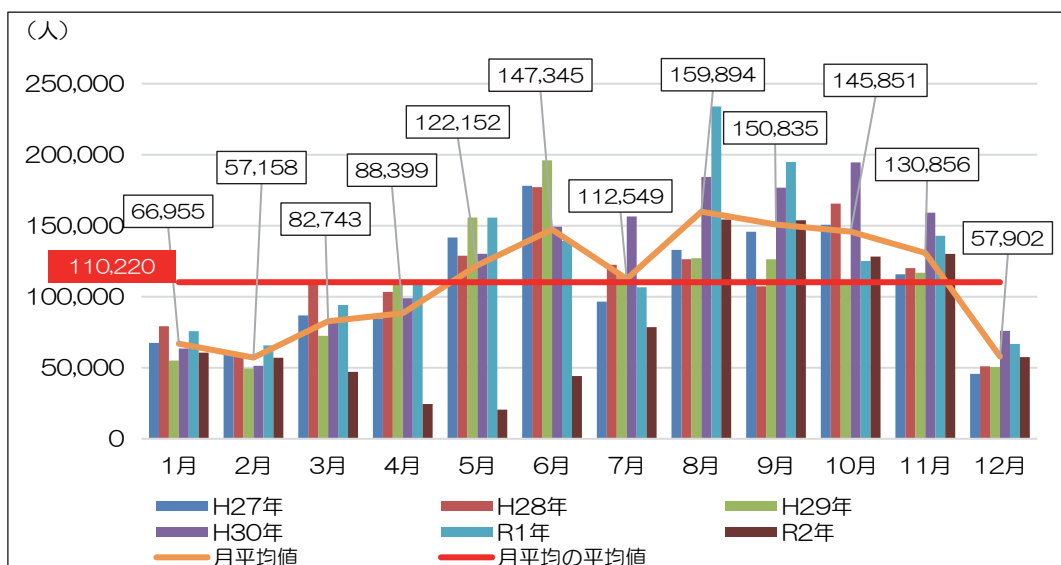


図2 山梨市における観光客入込客数月別推移

出典：山梨県観光入込客統計調査報告書（各年）

(2) 山梨市における観光消費額の推移

山梨市の観光消費額は「山梨県観光入込客統計調査報告書」に掲載されている一人当たり平均観光消費額に観光入込客数を乗じて算出しました。

令和2年は一人当たり平均観光消費額は上昇しましたが、観光入込客数が減少したため、観光消費額の総額は前年に比べて大幅に減少しています。

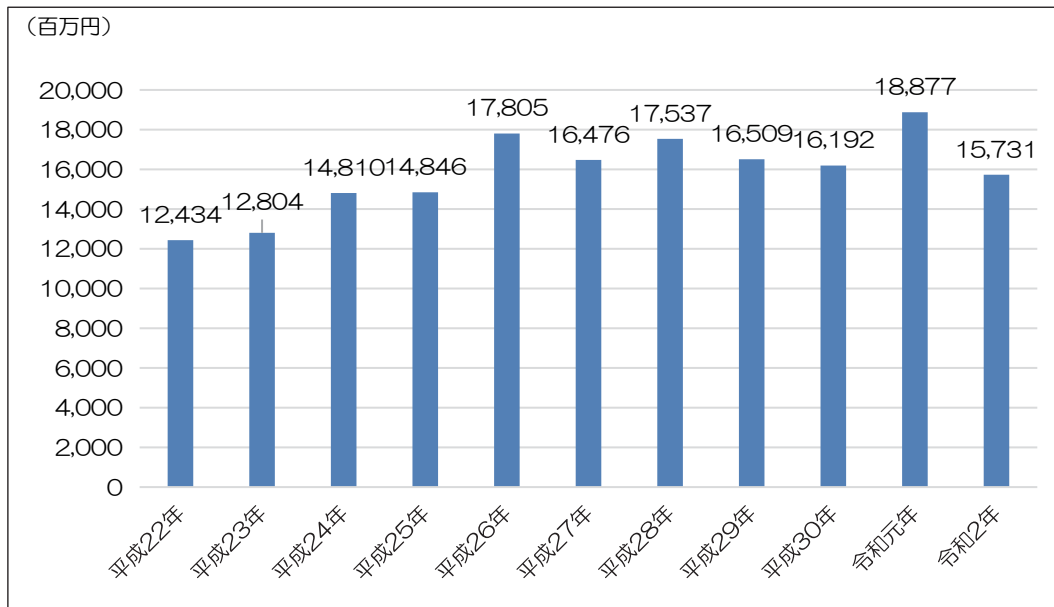


図3 山梨市における観光消費額の推移

一人当たり平均観光消費額

平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
9,919	10,523	12,109	12,274	14,858	12,609	12,971	12,851	10,616	12,498	16,442

出典：山梨県観光入込客統計調査報告書

2 RESAS¹から見る山梨市の観光

(1) 休日 14 時に山梨市に滞在した日本人の居住都道府県別割合

休日の 14 時に山梨市に滞在した日本人の居住都道府県割合では、東京都が 36.2%で最も多く、以下神奈川県 20.4%、埼玉県 13.8%と続いています。

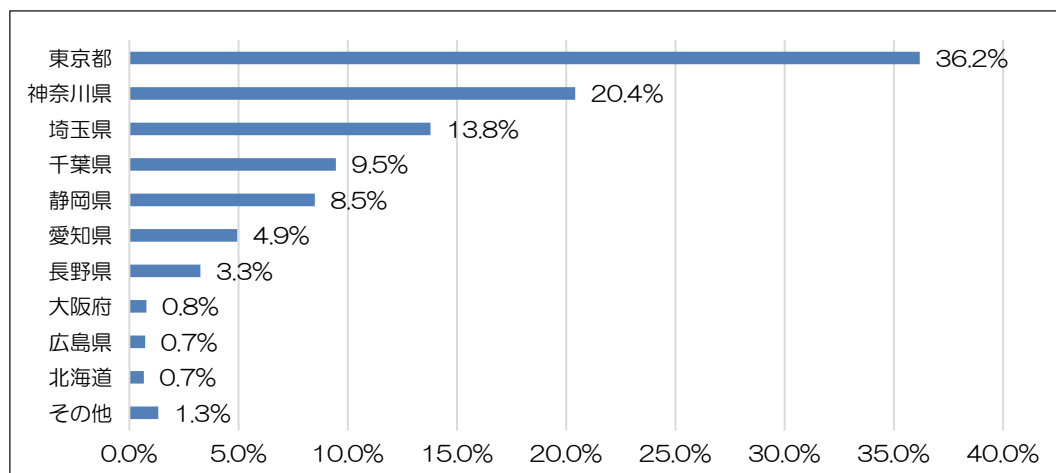


図4 休日 14 時に山梨市に滞在した日本人の居住都道府県別割合

出典：RESAS（令和 3 年 1 月）

(2) 観光施設等を目的地とした検索回数ランキング

① 交通手段 自動車

交通手段に自動車を使用した観光客が、経路検索サービスで目的地として検索した観光施設については「ほったらかし温泉 あっちの湯・こっちの湯」が最も多く、以下「笛吹川フルーツ公園」「西沢渓谷」が続いています。

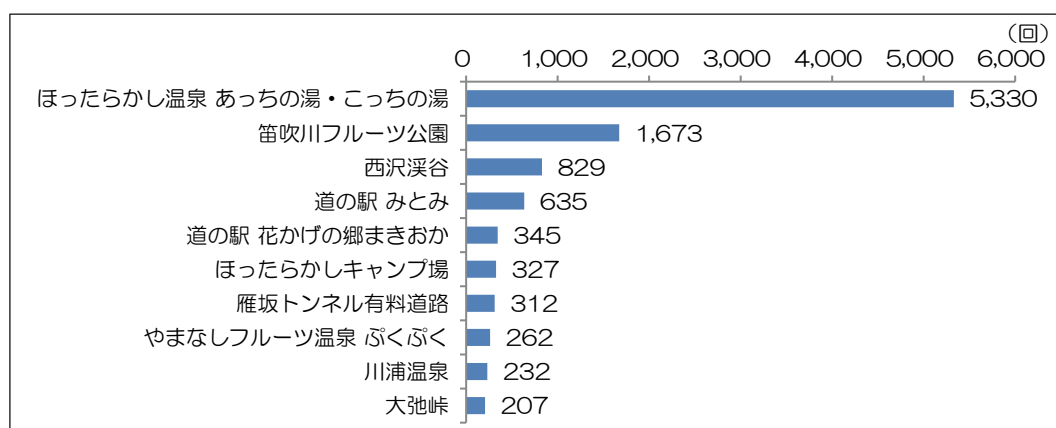


図5 観光施設等を目的地とした検索回数ランキング（交通手段 自動車）

出典：RESAS（令和元年）

¹ 内閣府のまち・ひと・しごと創生本部が運用している、産業構造や人口動態、人の流れなどに関する官民のいわゆるビッグデータを集約し、可視化できるシステム。地域経済分析システムのこと

② 交通手段 公共交通

交通手段に公共交通を使用した観光客が経路検索サービスで目的地として検索した観光施設については、自動車では下位だった「大弛峠」と「やまなしフルーツ温泉 ぶくぶく」が上位になっています。また自動車ではランク外だった「はやぶさ温泉」が7位となっています。

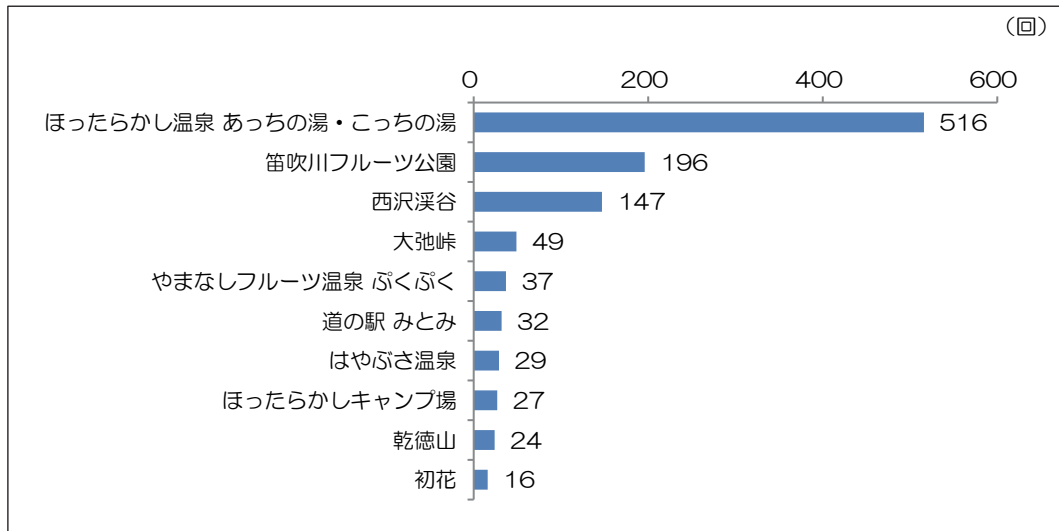


図6 観光施設等を目的地とした検索回数ランキング（交通手段 公共交通）

出典：RESAS（令和元年）

(3) 外国人訪問客の居住国・居住地域別割合

外国人訪問客の居住国・居住地域については、中華人民共和国が57.0%で最も多く、以下台湾が11.8%、タイが7.8%と続いています。

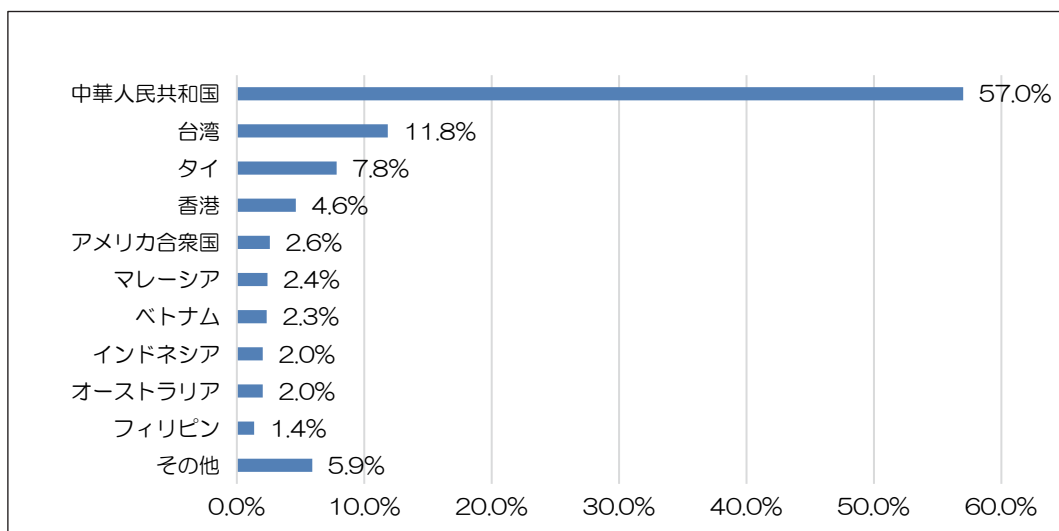


図7 外国人訪問客の居住国・居住地域別割合

出典：RESAS（令和元年）山梨県における国・地域別外国人訪問客数より算出

(4)外国人訪問客の移動関連分析

外国人訪問客の訪問直前の滞在地域については、東京都が46.3%で最も多く、次いで京都府10.7%となっています。

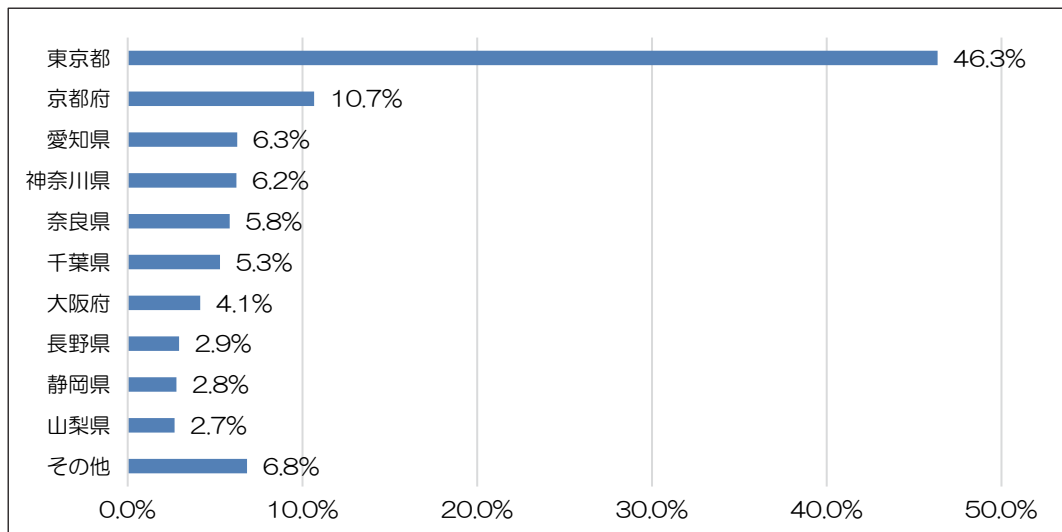


図8 外国人訪問客の訪問直前の滞在地域

出典：RESAS（令和元年）山梨県における外国人訪問客の訪問直前滞在地域より算出

外国人訪問客の訪問直後の滞在地域については、東京都が41.2%で最も多く、次いで千葉県12.6%となっています。

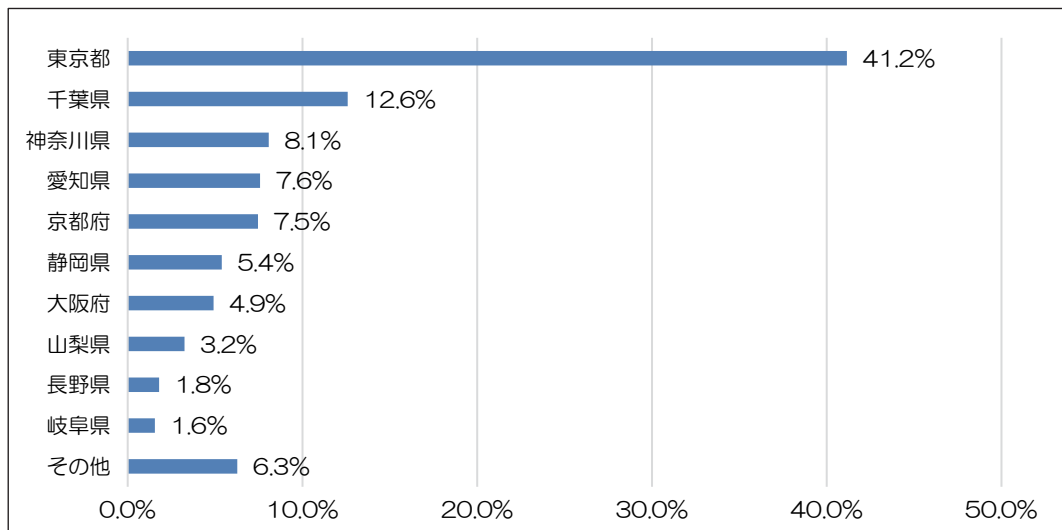


図9 外国人訪問客の訪問直後の滞在地域

出典：RESAS（令和元年）山梨県における外国人訪問客の訪問直前滞在地域より算出

(5) 外国人訪問客の国・地域別消費割合

令和2年9月の国・地域別消費割合については、中華人民共和国が39.7%で最も多く、以下、アメリカ合衆国20.6%、シンガポール11.1%、台湾9.5%と続いています。

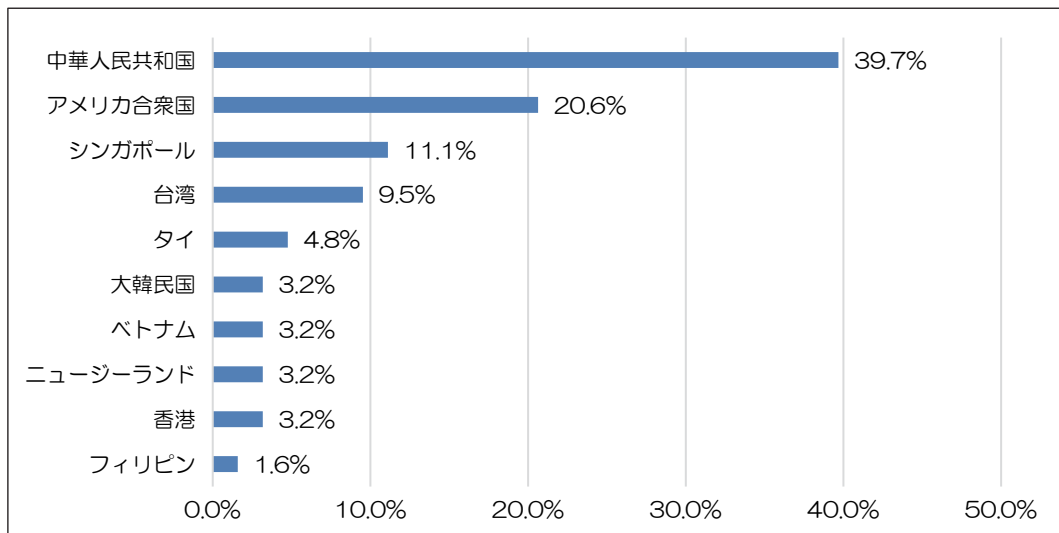


図10 外国人訪問客の国・地域別消費割合

出典：RESAS（令和2年9月）山梨県における外国人訪問客の消費額より算出

※(3)～(5)の外国人訪問客についてのデータに関しては、山梨市に来訪した外国人訪問客に関するデータがないため、山梨県のデータとしています。

3 山梨市の観光資源

(1) 観光施設

山梨市駅の西側、甲府盆地の大パノラマが広がる高台に位置する「笛吹川フルーツ公園」は、山梨の特産物や風土を五感で楽しめる約32haの県立公園であり、様々な遊具やアスレチック、農業体験、料理教室など子どもから大人まで1日を通して楽しめる公園です。

「新日本三大夜景」に認定された全国屈指の夜景の名所であり、日中には甲府盆地を挟んで、富士山や南アルプスなどの山々が一望できるなど、優れた眺望に恵まれた山梨市の観光の核となる施設です。また園内には、新日本三大夜景と富士山への眺望が楽しめる温泉もあります。

また、東武鉄道社長をはじめ鉄道会社24社の経営に携わり、「鉄道王」と呼ばれた初代根津嘉一郎翁の邸宅を保存・公開する「根津記念館」は、長屋門や主屋等が国の登録有形文化財に指定されており、約2,000坪の邸内の主屋や庭園等を見学できるほか、餅つきや豆まきなど四季折々の催事も行われます。



笛吹川フルーツ公園の夜景



根津記念館

(2) 自然・山岳資源

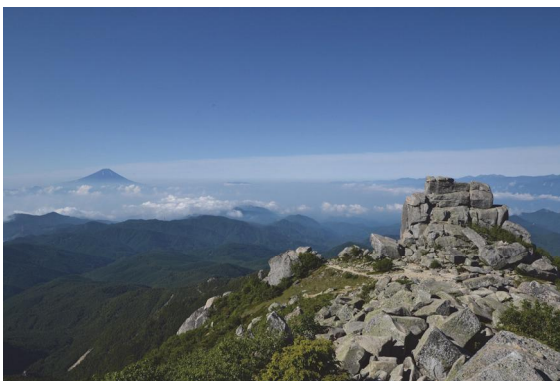
本市は、市域面積の約8割を森林が占め、北側は「秩父多摩甲斐国立公園」に属する自然・山岳資源の宝庫であり、「甲武信ユネスコエコパーク²」に登録されています。

日本百名山の「甲武信ヶ岳」「金峰山」をはじめとする奥秩父主脈の高峰の数々から、抜群の眺望を誇り登山者が絶えない「乾徳山」や「小檜山」、また比較的冬期でも登山しやすい「棚山」「兜山」等もあり、多種多様な山々を抱えています。また、「秩父多摩甲斐国立公園内」にある国内屈指の渓谷美を誇る景勝地である「西沢渓谷」は、トレッキングコースが整備されていることから、初夏のシャクナゲや新緑、紅葉を求めて観光客が訪れます。さ

² ユネスコエコパークとは、豊かな生態系を有し、地域の自然資源を活用した持続可能な経済活動を進めるモデル地域のこと。世界自然遺産が顕著な普遍的価値を有する自然を厳格に保護することを主目的とするのに対し、ユネスコエコパークは自然保護と地域の人々の生活とが両立した持続的な発展を目指している。

らに「日本の滝百選」に選ばれた「七ツ釜五段の滝」をはじめ、大小さまざまな滝が見られ、「森林浴の森100選」にも選出されています。その他にも、「徳和溪谷」「清水溪谷」などの風光明媚な溪谷、また標高1,700mに広がる亜高山性高茎植物の草原である「乙女高原」には、春のサクラスミレ、初夏のレンゲツツジをはじめ、季節によって様々な花が咲き乱れます。花以外にもキノコ、野鳥、小動物、昆虫、星など、自然を求めて多くの人々が訪れます。ファンクラブが中心となった遊歩道づくりや草刈などの保全活動も行われています。秩父山系の2,000m級の山々から流れ込む「乙女湖（琴川ダム）」は、国内の多目的ダムで最も高い標高に位置し、エメラルドグリーンの湖面が広がっています。

さらに、従来の登山・トレッキングに加えて、森林セラピー体験やサイクリングなど、豊富な自然・山岳資源を活かした数々の新たな取り組みも始まっています。



金峰山



琴川ダム

(3)歴史・文化資源

本市には、令和3年3月末現在、国指定13件（うち国宝1件）、県指定37件、市指定102件、国登録6件、市登録1件の合計159件の指定・登録文化財があります。

その中には、「国宝清白寺仏殿」や「窪八幡神社本殿」など、室町期に建てられた建造物が数多く含まれています。また、宝暦11（1761）年建築の「旧坂本家住宅」など、市内各地で近世以降に建てられた切妻民家を見ることができます。

夢窓国師によって開かれた臨済宗の寺院である清白寺境内には、国宝に指定されている禅宗様建築の仏殿や重要文化財の庫裏があります。また参道には梅が50本ほど植えられており、「梅の清白寺」として親しまれています。

武田氏に篤く信仰された「大井俣窪八幡神社」の境内には、室町時代に造られた建造物が多く残っています。本殿、拝殿、鳥居等の建造物9棟が国の重要文化財に指定されるほか、多くの文化財を有しています。本殿は現存する国内最大の流造であるとともに、鳥居も国内最古の木造鳥居となっています。

また「牧丘郷土文化館」は、明治8（1875）年に「室伏学校」として開校し、「藤村式」と呼ばれる擬洋風建築で作られています。郷土文化館として地元文化人の紹介や作品等が展示されています。



清白寺



大井俣窪八幡神社

(4) 特産品・郷土料理

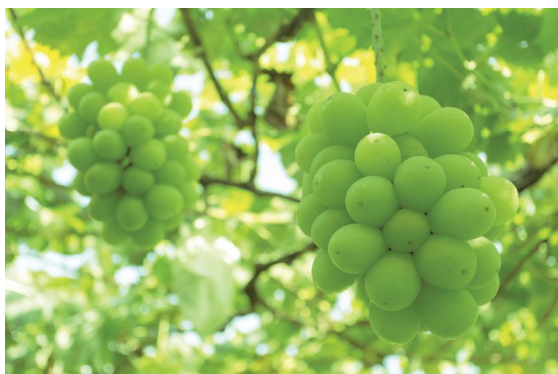
本市は、桃・ぶどうなど果樹栽培が盛んであり、観光農園が数多く存在します。果物狩りを目的に本市を訪れている来訪者は多く、観光における強い吸引力となっています。

また、本市はワイン産地としても多くの方々から認識されています。その品質は国際的にも高い評価を得ており、令和2年12月にワイン特区³に認定されたことで、これからの発展が大いに期待されます。また近年では、ワインツーリズムも高い人気を博しており、ワイナリーでは来訪者に対する受け入れ態勢を整えています。

富士山や甲府盆地の景色を眺めながら、ぶどう、桃、さくらんぼなどのフルーツ狩りが楽しめる観光フルーツ農園が多く点在し、直売所や直営のカフェ等を有するところもあり、季節の果物を使ったパフェなどが味わえます。最近のペットブームの中、小型犬等のペット同伴を可とする施設等もあります。

他にも市内の養鱒場で蓄養されるニジマスはブランド魚「甲斐サーモン」として高い評価を受けています。また、豊かな自然の恵みから作られる和洋菓子なども人気を博しています。

本市独自の郷土料理はあまり見られないものの、鳥もつやほうとうなど、山梨県を代表する郷土料理の多くを市内で味わうことができます。



シャインマスカット



桃

³ 酒類の最低製造数量基準である年間6キロリットルを果実酒について2キロリットルに引き下げ、小規模事業者の製造免許取得を可能にした構造改革特別区域法による特区

(5)体験（イベント・行事）

最近では旅行者等が観光に求める価値観が多様化しています。そのようなニーズに対応できるように、果物狩りや釣り、森林セラピー体験、ウォーキングガイドやフットパスなど、本市の豊かな自然資源を活用した様々な体験メニューがあります。

万力公園万葉の森で開催される「万葉うたまつりとホテル観賞会」、道の駅みとみで開催される「笛吹川源流まつり」、マラソンを通して豊かな自然と巨峰を味わっていただく「巨峰の丘マラソン大会」等のイベントも豊富です。最近では、市民団体等が主体となって運営する「朝市」や「桃の花まつり」など、新たな動きも生まれてきています。



笛吹川源流まつり



万葉うたまつりとホテル観賞会



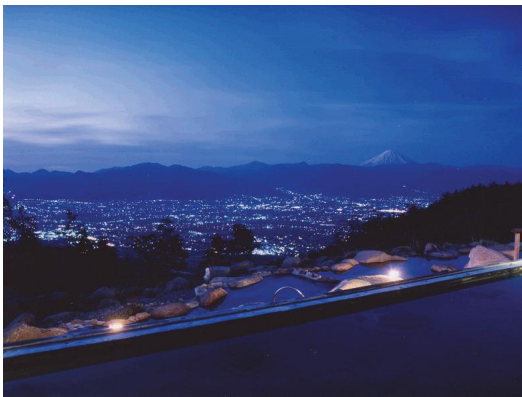
巨峰の丘マラソン大会



(6)温泉・宿泊

本市には、「みとみ笛吹の湯」「鼓川温泉」「花かげの湯」など、市営のアルカリ性単純温泉があり、銭湯並みの料金で入浴が可能となっています。また、「街の駅やまなし」や笛吹川フルーツ公園内のフルーツセンター等には足湯が設けられています。このほか、武田信玄の隠し湯として知られる「川浦温泉」、明治期の温泉旅館建築の旧館を持つ「岩下温泉」、笛吹川フルーツ公園の近傍に位置し眺望が魅力の「ほったらかし温泉」「やまなしフルーツ温泉ぷくぷく」、温泉をミネラルウォーターに加工している「はやぶさ温泉」など、特色ある温泉が多数あります。

また、これらの天然温泉を有する温泉旅館以外にも、リゾートホテルやビジネスホテル、金峰山や国師ヶ岳などの登山者のための山小屋等が数軒立地しています。



ほったらかし温泉



やまなしフルーツ温泉ぷくぷく

(7)日本農業遺産⁴・日本遺産⁵

峡東地域は日本のぶどう栽培発祥の地と云われており、盆地特有の急峻な地形や昼夜の寒暖差等を活用した高度な果樹栽培技術を形成してきました。江戸時代に考案された「甲州式」と呼ばれるぶどう棚栽培や、手間暇を惜しまない細やかな栽培管理は峡東地域独自の伝統的な生産手法であり、峡東地域で生産された果実は海外においても非常に高い評価を受けています。それら独自の農業システムが評価され、平成 29 年、峡東地域（山梨市、甲州市、笛吹市）の「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」が「日本農業遺産」の認定を受けました。また平成 30 年、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーである「日本遺産」に、山梨市、笛吹市、甲州市とともに、峡東地域のぶどう畑の景観の歴史やその魅力を語ったストーリー「葡萄畑が織りなす風景—山梨県峡東地域—」が認定されました。

⁴ 日本農業遺産は、我が国において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を農林水産大臣が認定する制度です。

⁵ 「日本遺産（Japan Heritage）」は（地域の歴史的的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産（Japan Heritage）」として文化庁が認定するものです。

4 山梨市の主な観光資源一覧

公園 観光施設	<ul style="list-style-type: none"> ・笛吹川フルーツ公園 ・万力公園（万葉の森） ・彩甲斐公園 ・山梨市駅前観光案内所 	<ul style="list-style-type: none"> ・街の駅やまなし （山梨市地域交流センター） ・道の駅 （花かげの郷まきおか、みとみ） ・JA フルーツ山梨、共選所、直売所
自然 山岳	<ul style="list-style-type: none"> ・西沢渓谷 ・徳和渓谷 ・清水渓谷と名瀑一之釜 ・甲武信ヶ岳 ・金峰山 ・大弛峠と夢の庭園 ・国師ヶ岳と北奥千丈岳 ・雁坂嶺と雁坂峠 ・鶏冠山（とさか山） ・破風山 ・笠取山 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒金山 ・乾徳山 ・小檜山 ・帯那山 ・兜山 ・棚山 ・乙女高原 ・大平高原 ・広瀬湖（広瀬ダム） ・乙女湖（琴川ダム） ・友沢・仏沢・大石山の奇岩群
歴史 文化	<ul style="list-style-type: none"> ・根津記念館 ・横溝正史館 ・牧丘郷土文化館 ・清白寺 ・大井俣窪八幡神社 ・天神社 ・中牧神社 ・山梨岡神社（石森山） ・永昌院 ・吉祥寺 ・洞雲寺 ・大嶽山那賀都神社 	<ul style="list-style-type: none"> ・川浦口留番所 ・鍵懸の関跡 ・雁行提 ・差出の磯 ・大石神社（大石山） ・上野家住宅 ・かのがわ古道 ・塩平の獅子舞 ・徳和の天神祭 ・隼の大わらし ・岩下古墳群
特産品 郷土料理	<ul style="list-style-type: none"> ・果物（桃、ぶどう、さくらんぼ、いちご、すもも、柿、りんご、キウイフルーツなど） ・ワイン ・甲斐サーモン ・和菓子、洋菓子（草餅、果物を使った和菓子、ケーキ 他） ・ほうとう 	<ul style="list-style-type: none"> ・とりもつ ・馬刺し ・馬レバー ・焼きもつ、煮もつ ・イノブタ料理 ・そば ・おざら
体験	<ul style="list-style-type: none"> ・果物狩り ・釣り堀 ・焼き物（窯元） ・農作業体験 ・ワイナリー見学、試飲、ワインツーリズム 	<ul style="list-style-type: none"> ・フットパス ・森林セラピー ・ウォーキングガイド ・観光ガイド
温泉	<ul style="list-style-type: none"> ・花かげの湯 ・鼓川温泉 ・みとみ笛吹の湯 ・ちどり温泉 ・川浦温泉 ・三富温泉 ・一之橋温泉 	<ul style="list-style-type: none"> ・岩下温泉 ・やまなしフルーツ温泉ぶくぶく ・ほったらかし温泉 ・万葉の湯 ・正徳寺温泉 ・はやぶさ温泉

5 山梨市の主なイベント一覧

月	イベント
4月	信玄公まつり出陣式（山梨市役所他） 桃の花まつり（かのがわ広場他） 春の花茶会（笛吹川フルーツ公園） 日吉山王神社春季例大祭（牧丘諏訪地区） 黒戸奈神社春季例大祭（牧丘中牧地区） 大嶽山那賀都神社春季例大祭（三富地区） 吉祥寺毘沙門天会式（三富地区） えがおフェスタ（牧丘地区） 西沢渓谷山開き（西沢渓谷） 差出磯大嶽山春例大祭（八幡地区） グリーンフェスタ&こどもまつり in フルーツ公園（笛吹川フルーツ公園）
5月	グリーンフェスタ&こどもまつり in フルーツ公園（笛吹川フルーツ公園） 大石山つつじ祭（岩手地区） 石森山つつじまつり（加納岩地区） 田部祭 乙女高原遊歩道づくり（乙女高原）
6月	万葉うたまつりとホテル観賞会（万力公園） フルーツフェスティバルさくらんぼの日（笛吹川フルーツ公園）
7月	山梨市プラモデル展示会（街の駅やまなし） フルーツフェスティバルももの日（笛吹川フルーツ公園） 笛吹川県下納涼花火大会（笛吹川・万力大橋下流）
8月	フルーツフェスティバルもも・ぶどうの日（笛吹川フルーツ公園） 笛吹川源流まつり（道の駅みとみ） 山梨フルーツライド 鼓川温泉灯ろうまつり（牧丘西保地区）
9月	フルーツフェスティバルぶどうの日（笛吹川フルーツ公園） 巨峰の丘マラソン大会（牧丘地域）
10月	ホビーフェスタ in 街の駅やまなし（街の駅やまなし） 山梨市うまいもの市 in フルーツ公園（笛吹川フルーツ公園） 農産物収穫祭（道の駅みとみ） 窪八幡神社例大祭（八幡地区） 地球元気村収穫祭 in フルーツパーク（笛吹川フルーツ公園） 新日本三大夜景コンサート（笛吹川フルーツ公園）
11月	田舎まつり（道の駅花かげの郷まきおか） いい駅前どっと混むまつり（街の駅やまなし） 乙女高原草刈り（乙女高原）
12月	フルーツ公園のクリスマス（笛吹川フルーツ公園）
1月	New Year Festival HAPPY初日の出（笛吹川フルーツ公園） 塩平の獅子舞（牧丘西保地区） 八幡北打ちばやし（八幡地区） 徳和天神まつり（三富地区） 乙女高原フォーラム（乙女高原）
2月	万力穴観音祭（山梨地区）
3月	隼の大わらじ（牧丘諏訪地区）
年複数回開催	歳時イベント、特別展（根津記念館） 朝の市（山梨市駅前夢の実広場）

第3章 前計画の検証

1 【基本方針 1】地域資源を活用した観光メニューの提供

■ 評価指標の達成状況

基本方針1「地域資源を活用した観光メニューの提供」における評価指標については、主要観光施設・イベント入込客数について、平成27年の110万人を基準として令和3年に130万人を目標としていました。

計画期間の実績値は、平成30年に128万人とピークとなっていました。令和元年には122万人に減少し、さらに令和2年には新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、69万人にまで減少しています（令和3年はまだ実績値が出ていません）。

表1 主要観光施設・イベント入込客数の推移

評価指標(KPI)	現状値	実績値						目標値
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3
主要観光施設・イベント入込客数(万人)	110	105	103	128	122	69	—	130

出典：市内主要観光施設・イベント入込客数

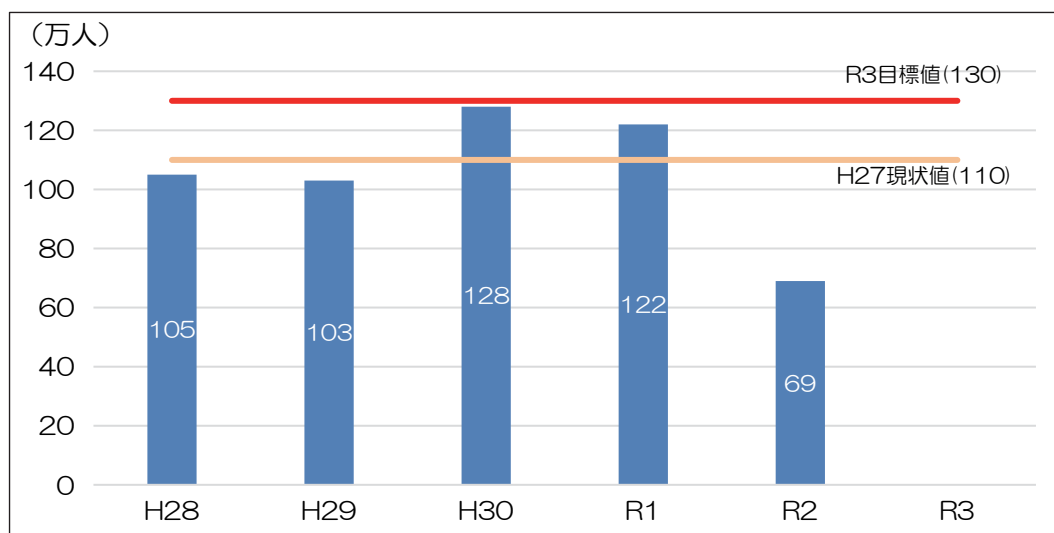


図11 主要観光施設・イベント入込客数の推移

■基本方針1の具体施策

(1)果樹を軸にした観光メニューの開発・強化

具体的施策	実施内容
①ワインリゾート構想の推進	山梨県や隣接自治体と協力し、市内の個性的なワイナリーの情報発信、ワインコンシェルジュ制度や広域マップの作成などにより、ワインを軸にした広域の長期滞在型リゾートを目指します。これにより、集客力のある富士五湖方面からの周遊を促進します。
②果樹景観を活用した観光振興	県内屈指の果樹地帯であるメリットを生かし、産地を保全するとともに、桃源郷や一面のぶどう畑のある風景、豊富な果樹を活用した観光振興を推進します。これにより、山梨市のブランドイメージを高めます。

(2)「自然と交流」することをテーマにした観光メニューの開発・強化

具体的施策	実施内容
①既存の観光資源を有機的に結合させたメニューの開発	西沢渓谷や温泉資源など、既存の観光資源を有機的に結合させることにより新たな魅力を発掘するとともに、日帰り客を含めた観光客の消費喚起を促します。
②多様なニーズ（スポーツ観光、山岳観光等）に対応した魅力的な観光地の開発	多様なニーズに対応するため、従来の観光に加え、マラソンやトレイルラン、サイクリング等のスポーツやハイキングツアー等のイベントを開催します。また、高地トレーニングなどに適した地域特性を生かした観光メニューの開発を推進します。
③森林資源・温泉資源等を活用したウェルネスツーリズムの開発	平成19年から取り組んできた森林セラピーの活動を更に発展させ、本市の総面積のおよそ8割を占める森林や豊富な温泉、新鮮な果樹などの資源を生かし、「心身の健康」をテーマにしたウェルネスツーリズムの拠点となるような地域づくりを推進します。また、宿泊施設と連携して体験メニューの開発を推進します。
④都市農村交流の推進	首都圏から100km圏内の立地を活かした果物狩りや農作業体験等、地域住民との交流を活かした着地型観光を推進します。

(3)文化財を軸にした観光メニューの開発・強化

具体的施策	実施内容
①文化財やパワースポット等を活用したフィールドミュージアム構想の推進	国宝の仏殿が存在する清白寺や9棟の重要文化財を持つ大井俣窪八幡神社、近年パワースポットとして注目されつつある大嶽山那賀都神社、大石神社などの歴史的・文化的資源を軸に、その他の資源を広域的に結び付けたフィールドミュージアム構想の推進を図ります

■基本方針1の総括

峡東地域ワインリゾート推進協議会事業である峡東ワインリゾート人材育成の取組みの一環として、ワインコンシェルジュ研修への参加に取り組んできました。令和元年度のワインコンシェルジュ認定制度廃止後は「峡東ワインリゾート魅力発見講座」の実施に取り組みました。その結果、計画期間内に42名の参加を得ることができました。令和2年度からは「峡東ワインリゾート魅力発見講座」に代わる新規事業として、情報発信事業やモデルツアー作成事業を実施しました。これにより、ワインを軸とした広域の長期滞在型リゾートへのきっかけを作ることができました。

山梨市、甲府市、甲州市、笛吹市の4市広域連携及び富士河口湖町を追加した「富士山フルーツ観光推進協議会」を通じて、広域連携体制での観光客誘引を進め、インバウンドを含む観光客誘致につなげることができました。また市独自の案内人認定制度に取り組むことにより、より専門性を高めたサービスの提供に成功しました。

自転車イベント（フルーツライド）を実施するとともに、簡易型セラピーメニュー「朝の散歩」を宿泊施設と共同で開発し、宿泊者へのサービス事業として実施しました。

計画期間中に、山梨市を含む峡東地域が「葡萄畑が織りなす風景」として日本遺産に認定されました。

今後は観光客のニーズに則したコンテンツを組み合わせた観光メニューの充実、山梨市内で消費を喚起する仕組みづくりが求められます。

2 【基本方針2】ターゲットに応じた観光情報の提供

■ 評価指標の達成状況

基本方針2「ターゲットに応じた観光情報の提供」における評価指標については、外国人宿泊者数について、平成27年の447人を基準として令和3年に600人を目標としていました。

計画期間の実績値は、平成28年から平成30年にかけて目標値を上回る実績をあげていましたが、令和元年には459人に減少し、さらに令和2年には新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、114人にまで減少しています(令和3年はまだ実績値が出ていません)。

表2 外国人宿泊者数の推移

評価指標(KPI)	現状値	実績値						目標値
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3
外国人宿泊者数(人)	447	955	1,492	795	459	114	—	600

出典：山梨県観光入込客統計調査報告書

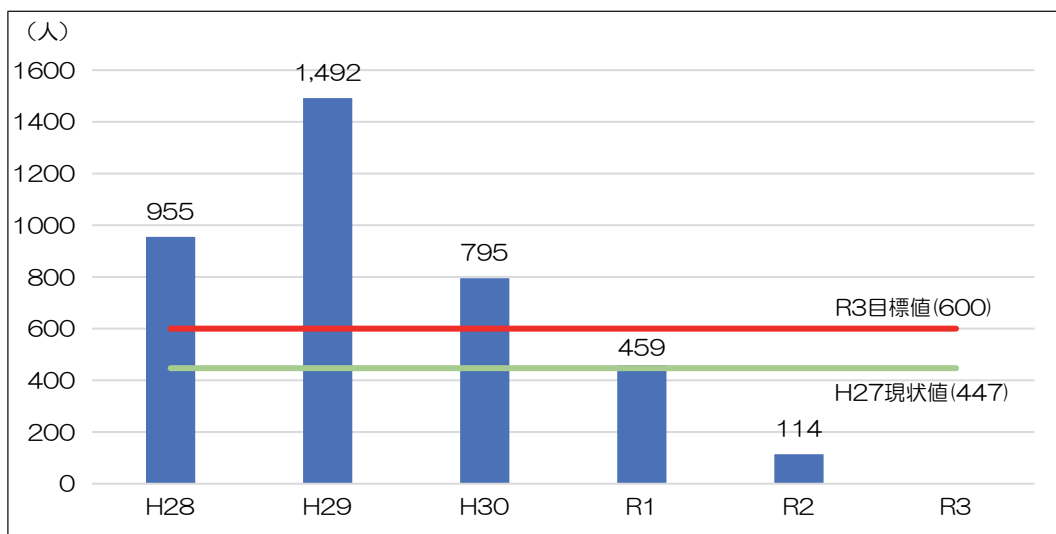


図12 外国人宿泊者数の推移

■基本方針 2 の具体施策

(1) 関係団体との連携強化

具体的施策	実施内容
①他地域・異種団体との連携強化	DMO ⁶ の設立を視野に、隣接自治体や各種団体との連携を強化します。
②地域商社等との連携	着地型旅行商品開発を推進するため、本市で設立準備を進めている地域商社や既存の旅行会社との連携を図ります。
③地元企業との連携	地元企業との連携により、オリジナル観光メニューや商品開発を推進します。

(2) SNS⁷等を活用した情報発信

具体的施策	実施内容
①観光協会との協力による旬な情報の提供	観光協会と連携し、従来のホームページによる情報発信に加え SNS(Twitter や Facebook など)を活用した旬な観光情報の発信を強化します。

(3) 外国人観光客への積極的なアプローチ

具体的施策	実施内容
①果樹や山岳など豊かな自然を軸にした観光の外国人へのアプローチ	インバウンド観光への第一歩として、在日外国人（特に在日米軍関係者）に対し、果物狩りやハイキング、日本文化体験など本市の観光プロモーションを強化します。
②スポーツ観光の外国人へのアプローチ	サイクリング観光の盛んな台湾向けに、フルーツラインサイクリングコースや大弛峠ヒルクライムコースなどをアピールするなど、スポーツを活用した観光プロモーションを強化します。
③ワンデートリップの推進	首都圏からの日帰り圏内の立地を生かし、日本国内に長期間滞在する外国人観光客向けに、大都市圏等からのワンデートリップ（日帰り観光）による来訪を促進します。

⁶ 「Destination Management Organization」または「Destination Marketing Organization」の略で、多様な関係者と協同しながら、観光地域づくりを実践するための組織

⁷ Social Network Service の略で、メッセージなどを通じて友人や知人・共通の趣味を持つ人達とインターネット上で繋がることができるサービス

■基本方針2の総括

新型コロナウイルス感染症拡大により多くのイベントが中止になる中、観光協会と連携して従来のホームページによる情報発信に加え、SNSを用いた「おうちで山梨市」プレゼント企画を実施しました。その結果、Twitterのフォロワー数を7,000人から15,000人に、またInstagramのフォロワー数を2,000人から5,000人に増やすことができ、山梨市の知名度の向上につなげることができました。また地域資源（清水渓谷）を活用したシャワーライティング（川遊び）などの新たな観光メニューの開発を進めました。

台湾など、サイクリング観光が盛んな地域の自転車企業、自転車協会関係者、旅行代理店関係者等を対象にモニターツアーを開催したり、台湾で開催されたイベントへの参加を通してスポーツを活用した観光プロモーションを行うことができました。首都近隣から日帰り圏内という立地を活かして、日本国内に長期滞在する外国人観光客向けにワンデートリップ（日帰り観光）による来訪促進を図りました。

SNSフォロワー数が増加するなどSNS活用の充実が図られている一方で、更新頻度を上げるなど、より充実した情報発信が求められています。情報媒体については、国内外やターゲットとなる地域によって、紙、TV、Facebook、Instagram、Webサイト等、使い分けが必要と考えられます。また、観光協会会員間での情報共有も求められます。

3 【基本方針3】観光基盤の整備・拡充

■評価指標の達成状況

基本方針3「観光基盤の整備・拡充」における評価指標については、山梨市駅観光案内機能強化件数(観光案内所・デジタルサイネージ⁸等設置)について、平成27年の0件を基準として令和3年に2件を目標としていました。

計画期間の実績値は、平成28年から平成30年にかけては0件ですが、令和元年にデジタルサイネージを設置し、実績1件となっています(令和3年はまだ実績値が出ていません)。

観光案内所については有人の観光案内所の設置は行っていませんが、駅構内にパンフレットを置くなどの施策を講じています。

表3 山梨市駅観光案内機能強化件数の推移

評価指標(KPI)	現状値	実績値						目標値
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3
山梨市駅観光案内機能強化件数(観光案内所・デジタルサイネージ等設置)(件)	0	0	0	0	1	1	—	2

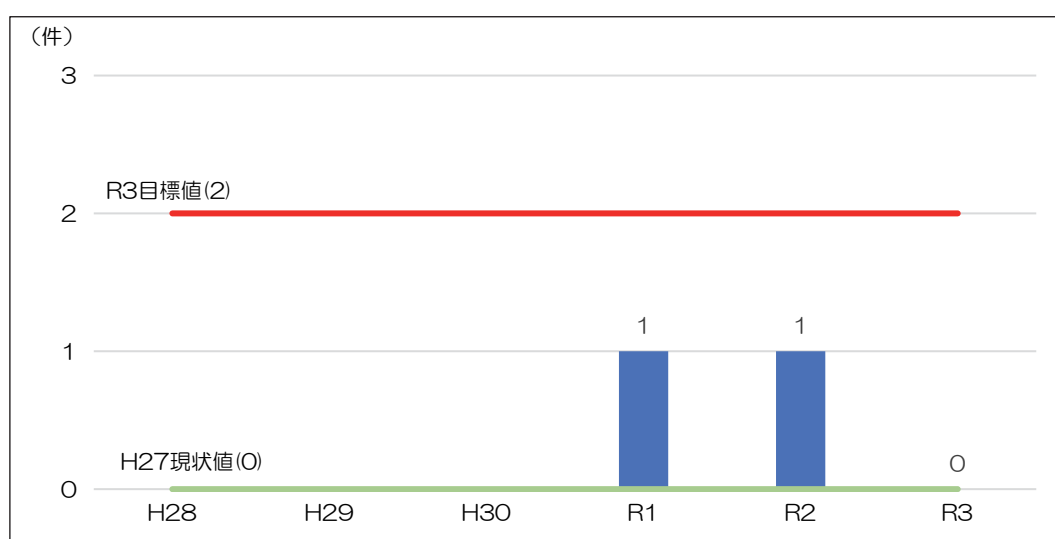


図13 山梨市駅観光案内機能強化件数の推移

⁸ 平面ディスプレイやプロジェクタなどによって映像や文字を表示する情報・広告媒体

■基本方針3の具体施策

(1)観光ゲートウェイとしての山梨市駅の整備

具体的施策	実施内容
①観光案内機能の強化と情報発信拠点化の推進	山梨市駅の改修工事（南北自由通路の新設）を機に、山梨市駅を観光ゲートウェイとして位置づけ、観光案内所やデジタルサイネージ、無料 Wi-Fi スポットの設置、周辺施設などとの連携を含めた観光情報の発信機能を強化します。
②駅周辺における賑わい空間形成の推進	山梨市の玄関口である駅周辺に、賑わいのある空間形成を推進します。

(2)観光を支えるハード・ソフトの整備

具体的施策	実施内容
①観光インフラの整備・充実	観光資源を活用するために必要なハード・ソフトの整備・拡充を図ります。また、本市の景観計画やサイン方針などを踏まえ観光案内標示の整備・充実にも努め、来訪者が安全で快適に過ごすことができる観光地づくりを目指します。
②おもてなしの心の醸成	「おもてなしの心をおみやげに」をキャッチフレーズに、市民一人ひとりが山梨市の代表であるという意識を持ち、市民や民間事業者、観光関連団体、行政が一体となり、市全体で観光客を温かくおもてなしできる環境を整えます。
③ユニバーサルデザインの推進	外国人観光客・高齢者・障がい者・子どもなど、誰にとっても使いやすいハード・ソフトの整備・充実を図ります。

■基本方針3の総括

山梨市駅南北自由通路が利用可能となり、南口の利用が令和3年2月から開始されました。南北自由通路へデジタルサイネージを設置するとともに、駅周辺への Wi-Fi 設置環境の整備を進めました。また日本遺産認定に伴い、構成資産案内看板を作成し、観光客へ日本遺産認定のPRを行うことができました。

山梨市役所女子観光プロモーションチーム、山梨市観光協会、山梨市フルーツパーク株式会社の共催により、山梨市観光協会員と商工会女性部を対象に「おもてなし講座」を実施し、観光客へのおもてなしの心の醸成につなげることができました。

Wi-Fi 環境の整備が進められている一方で、整備状況が点での整備となっています。市内のより広い範囲で利用できるような整備が求められます。

山梨市駅及びその周辺の整備が進められてきていますが、今後は民間の力も活用しながら、より一層賑わい創出に努める必要があります。

4 【基本方針4】東京オリンピック/パラリンピックを見据えたインバウンド観光への対応

■ 評価指標の達成状況

基本方針4「東京オリンピック/パラリンピックを見据えたインバウンド観光への対応」における評価指標については、事前合宿誘致件数について、平成27年の0件を基準として令和3年に1件を目標としていました。

計画期間の実績は、平成28年12月にドイツ連邦共和国のウエイトリフティング競技、令和2年2月にキルギスのパラパワーリフティング競技のホストタウンに登録されました。

表4 事前合宿誘致件数の推移

評価指標(KPI)	現状値	実績値						目標値
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R3
事前合宿誘致件数(件)	0	1	1	1	1	2	2	1

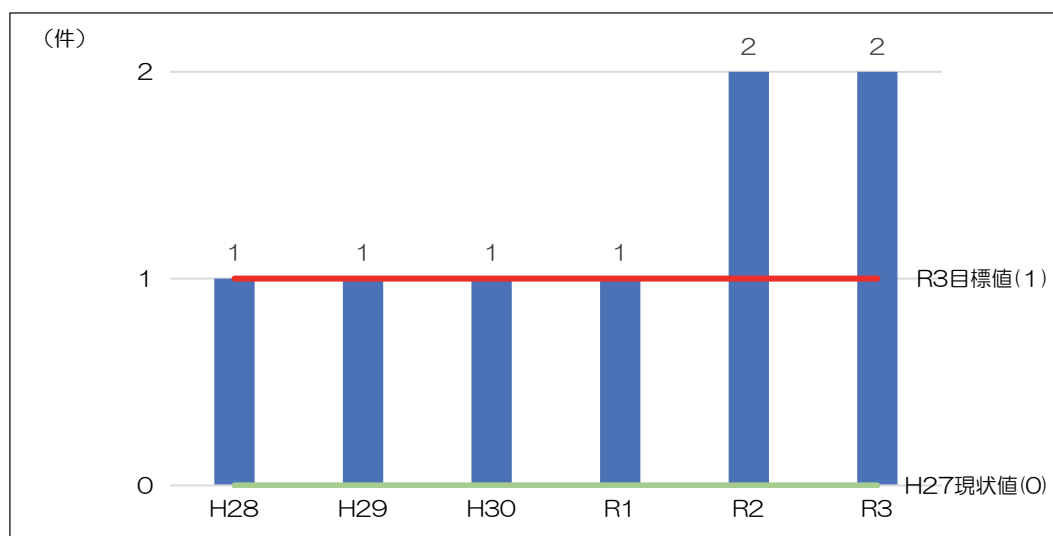


図14 事前合宿誘致件数の推移

■ 基本方針 4 の具体施策

(1) 訪日外国人観光客受け入れ体制の強化

具体的施策	実施内容
①パンフレット、サイン等の多言語化	外国人観光客向けにパンフレット、サイン、ホームページや SNS などの観光情報の多言語化を推進します。(英語/中国語を優先)
②日本体験プログラムの開発	根津記念館等を活用し、茶道体験や和菓子作り体験といった「日本体験プログラム」を開発します。
③広域連携体制の強化	関東広域観光周遊ルート形成促進協議会に加盟し、近隣自治体のみならず、郡県をまたいだ広域連携体制の推進をはかります。
④外国人が使えるインターネット環境の整備	外国人観光客向けの無料 Wi-Fi スポットの整備を推進します。

(2) 事前合宿の誘致や交流イベントの開催

具体的施策	実施内容
①東京オリンピック/パラリンピックの事前合宿の誘致	東京オリンピック/パラリンピックの事前合宿を誘致します。
②交流イベントの開催	事前合宿を行う国の選手・競技関係者等と市民との交流イベントを開催します。

■ 基本方針 4 の総括

総合パンフレットの多言語化を進め、中国語版、英語版を作成することができました。これによってインバウンド対応を進めることができました。

サイクリングモニターツアーを上越地区関東広域連携事業に併せて実施しました。

山梨市駅南北自由通路の整備に伴い、駅周辺のネットワーク環境の整備を進めたことで、インバウンドを含めた今後の無料 Wi-Fi 環境整備につなげることができました。

東京オリンピック・パラリンピックに関連して、ドイツウエイトリフティングチーム、キルギスパラパワーリフティングチームの誘致に成功しました。ドイツとの事前交流として、市内高校生がドイツを訪問し、ウエイトリフティングでの交流を行いました。またドイツからはユースチームが来訪し交流を行いました。またキルギスとの事前交流として、キルギスに市職員が訪問、またキルギスから山梨市に来訪いただき、市内の障害施設の見学や、小学校で和太鼓の披露などを行いました。併せて、オンラインでお互いの文化の紹介を行いました。

5 【基本方針5】推進体制の構築

■基本方針5の具体施策

(1)PDCA サイクルの構築

具体的施策	実施内容
①観光振興推進会議の設置	本計画を推進するため、庁内に副市長を委員長とする観光振興推進会議を設置し、進捗状況の確認や、評価指標値のモニタリングを実施します。
②外部専門委員会の設置	有識者などをメンバーとする外部専門委員会を設置し、中長期的なマイルストーン ⁹ を設定した上で、計画の進捗状況および評価指標値を確認するとともに、適宜、目標値の見直しを行います。また、本計画の進捗状況を評価します。

■基本方針5の総括

推進体制の運営状況としては、令和元年度に外部専門員会、観光振興推進会議において、計画の進捗状況の確認と目標値の検討、計画の評価等の中間年度報告を行いました。

⁹ プロジェクトを完遂するために重要な中間目標地点

第4章 アンケート調査結果

1 アンケート調査概要

本市では、平成30年及び令和元年に、東京都庁観光PRキャンペーンにおいて全国観光PRコーナー内のイベントコーナーにて山梨市が観光PRを行う機会が得られたため、山梨市の観光に関するアンケート調査を実施しました。

1. 調査の目的

山梨市の観光についてアンケート調査を実施し、性別・年齢階層別の分析をすることにより旅行の目的や訪問先、旅行での満足度、要望などを明らかにする。

2. 調査期間

平成30年12月12日（水）～12月18日（火）

令和元年12月11日（水）～12月17日（火）

3. 調査地点

東京都庁第一庁舎（東京都新宿区西新宿2-8-1）全国観光PRコーナー

4. 実施主体

山梨市観光課

5. 回答数

530件

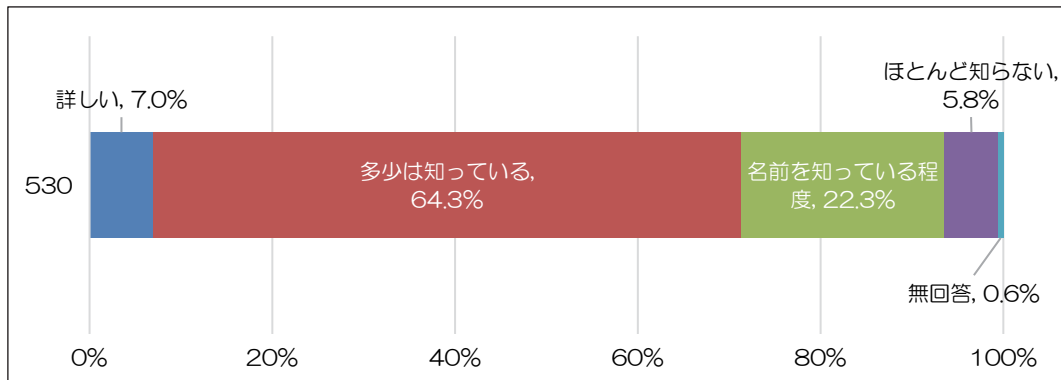
6. 調査方法

回答者がその場で記入するアンケート調査

2 アンケート調査結果

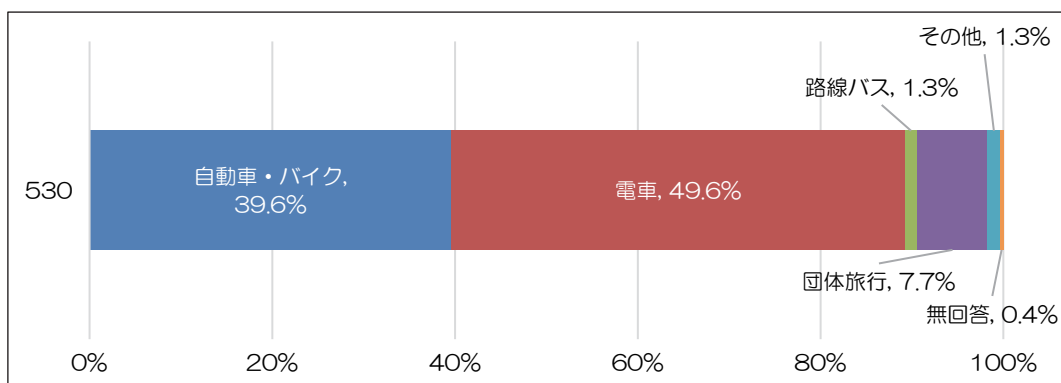
(1) 「山梨市のことを知っていますか」

山梨市の認知度については「詳しい」と「多少は知っている」を合わせると 7 割以上の人が山梨市を「知っている」と回答しています。



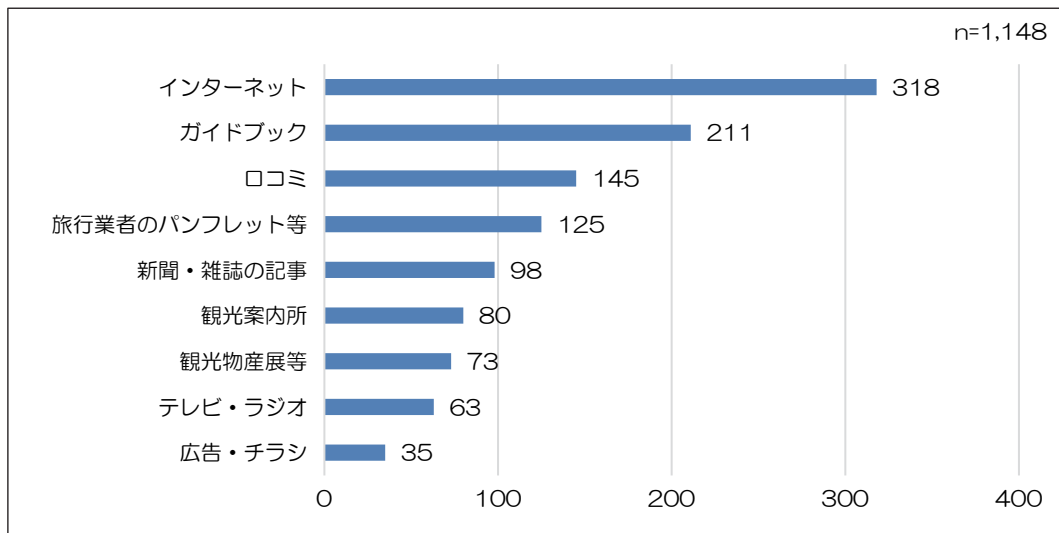
(2) 「あなたが普段、旅行をするときに主に使う交通手段を教えてください」

旅行の交通手段については、「電車」の 49.6% が最も多くなっています。次いで「自動車・バイク」の 39.6% が多くなっています。



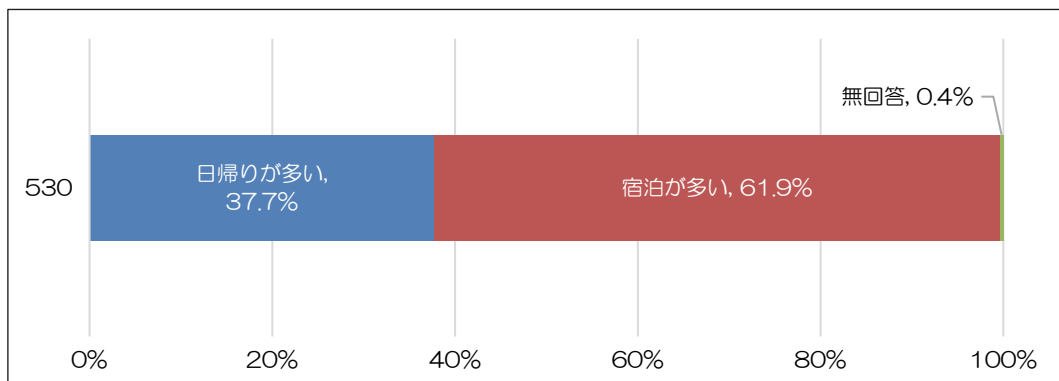
(3) 「旅行を計画するにあたって主に何を参考にしますか」

旅行を計画するにあたって主に参考にするものについては、インターネットが最も多く、次いでガイドブックとなっています。



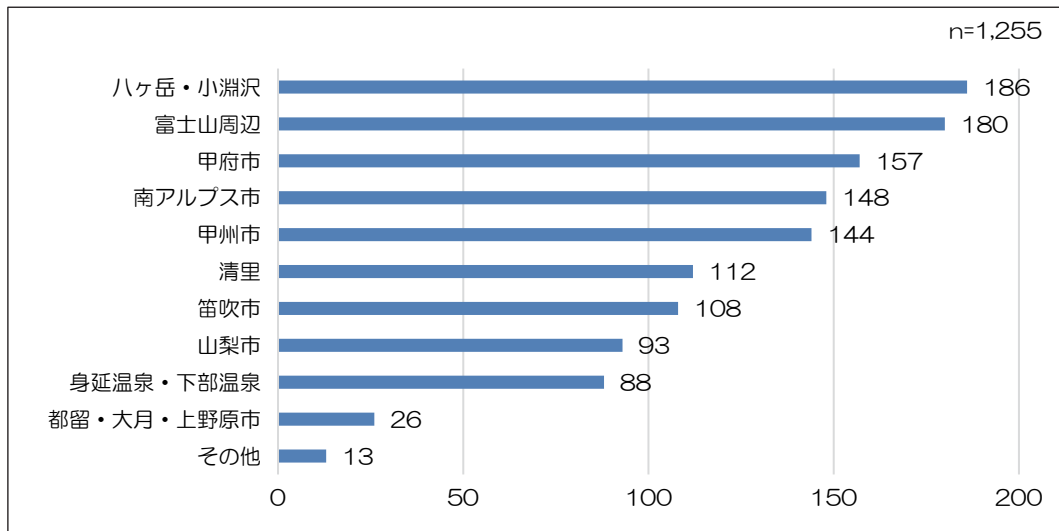
(4) 「普段行く旅行は日帰りですか、宿泊ですか」

普段行く旅行については、「宿泊が多い」との回答が多くなっています。



(5) 「山梨県内で気になる観光地はありますか」

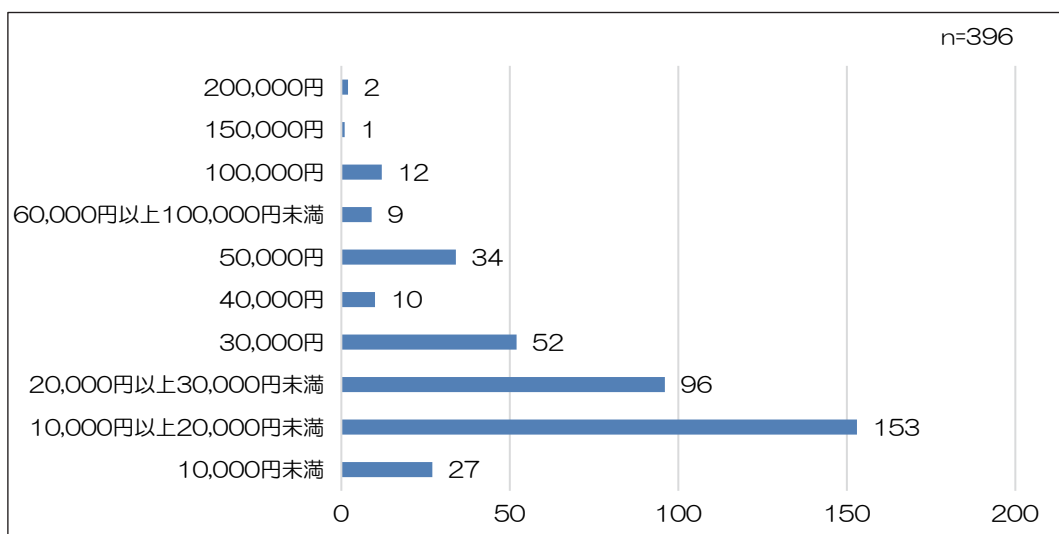
山梨県内で気になる観光地については「ハケ岳・小淵沢」、「富士山周辺」が多くなっています。



(6) 「1回の旅行の予算」

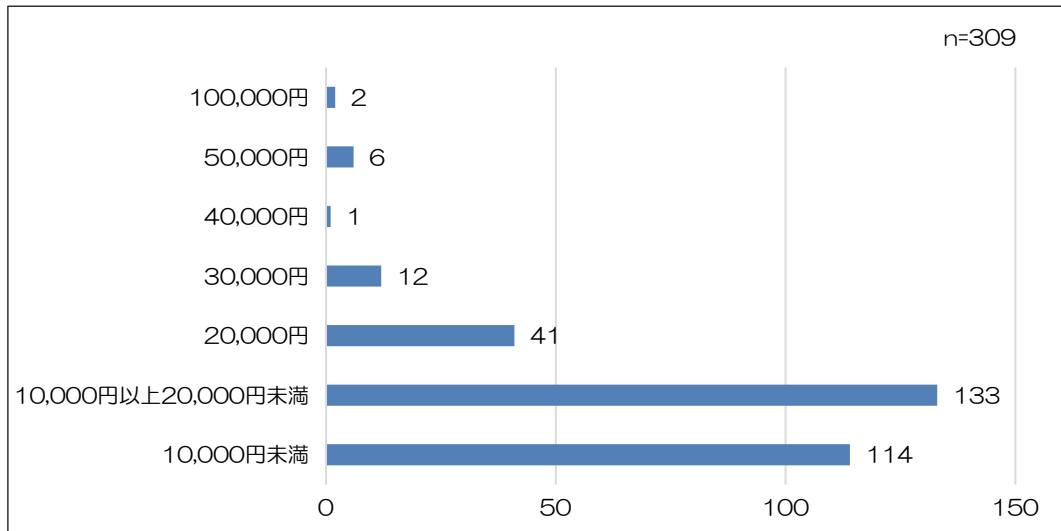
① 宿泊費

1回の旅行における宿泊費の予算は「10,000円以上20,000円未満」が最も多く、次いで「20,000円以上30,000円未満」が多くなっています。



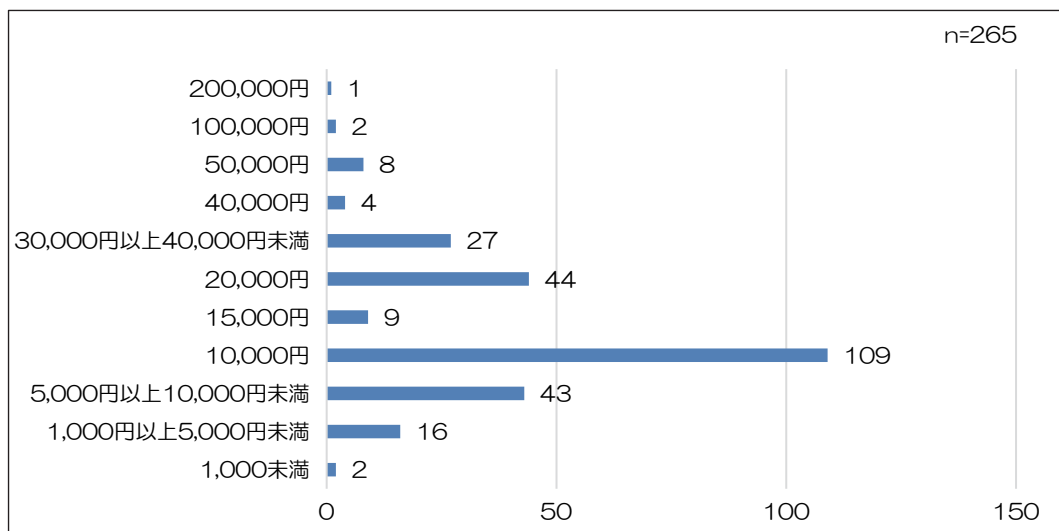
② 飲食費

1回の旅行における飲食費の予算は「10,000円以上20,000円未満」が最も多く、次いで「10,000円未満」が多くなっています。



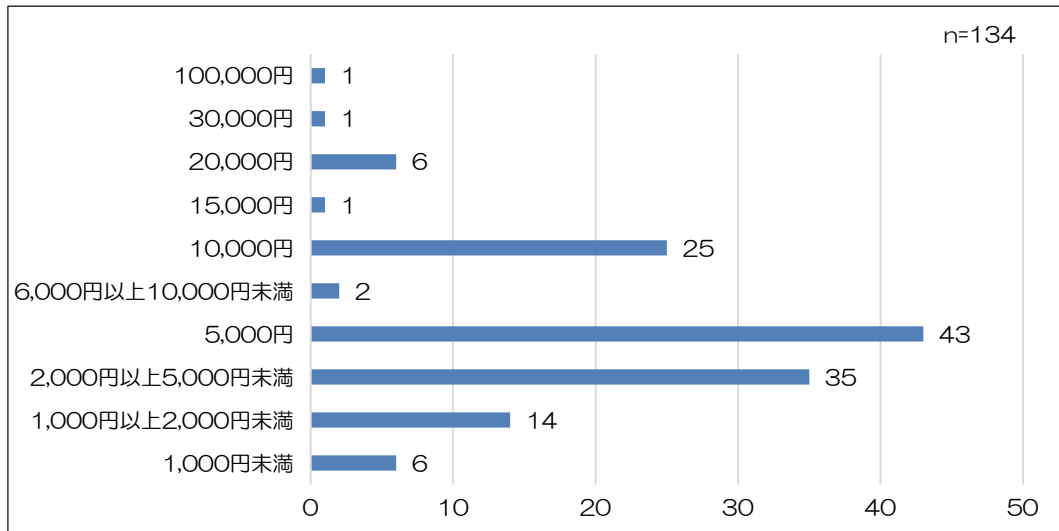
③ 交通費

1回の旅行における交通費の予算は「10,000円」が最も多くなっています。



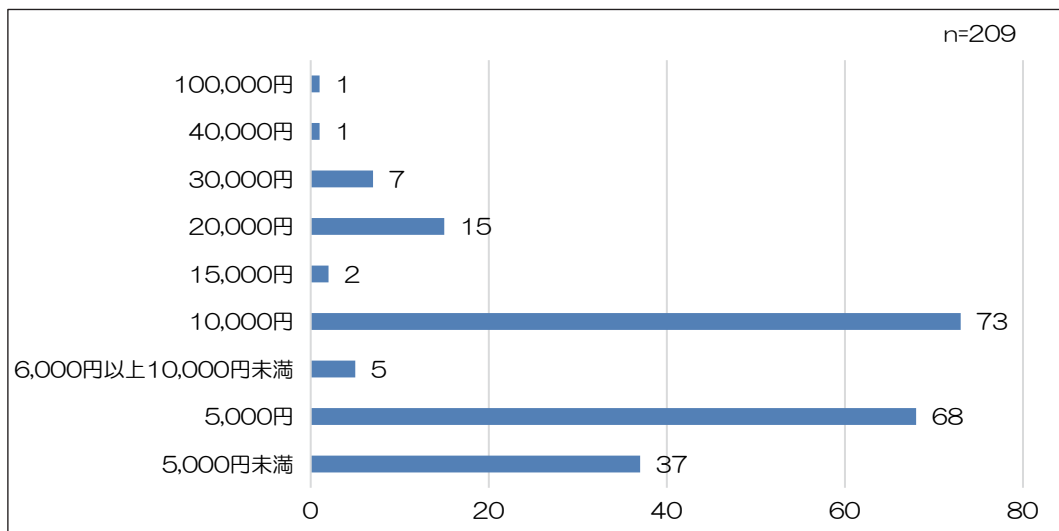
④ 入場・観覧費

1回の旅行における入場料・観覧費の予算は「5,000円」が最も多く、次いで「2,000円以上5,000円未満」が多くなっています。



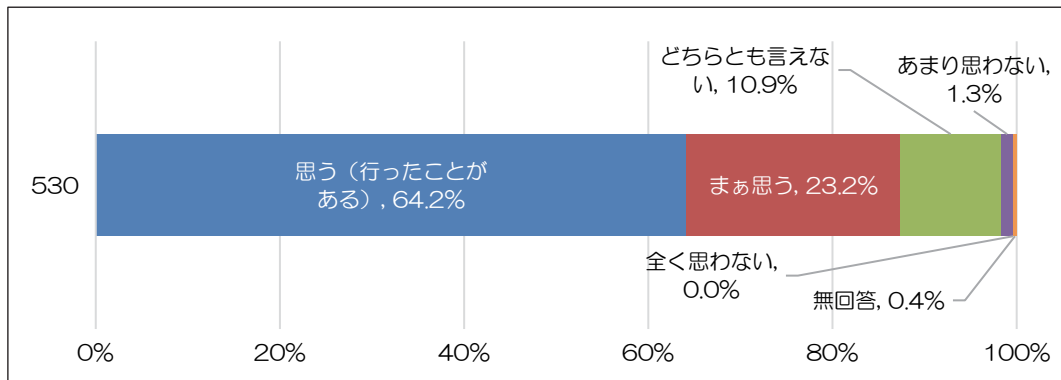
⑤ 土産・買物費

1回の旅行における土産・買物費の予算は「10,000円」が最も多く、次いで「5,000円」が多くなっています。



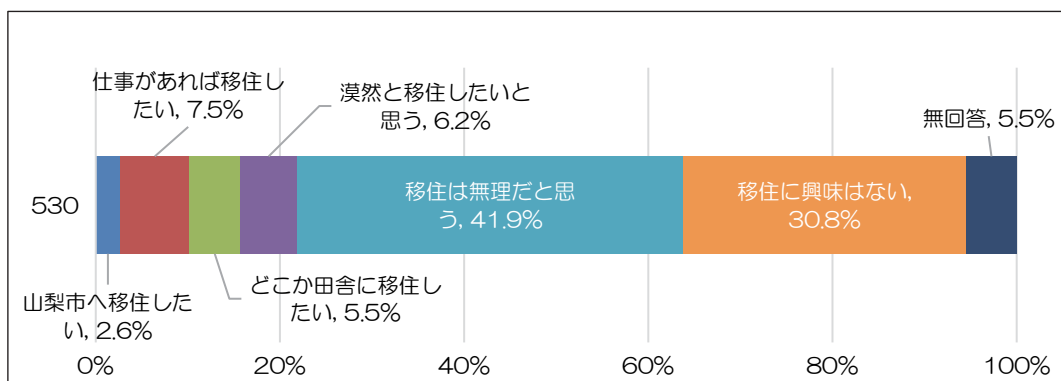
(7)「山梨市に行きたいと思いますか」

山梨市に行きたいと思うかについては「思う」と「まあ思う」を合わせた「思う」との意向が9割近くとなっています。



(8)「移住希望・移住願望はありますか」

移住希望・移住願望については、21.6%が「移住希望あり」と回答しています。移住希望者のうち 12.0%が山梨市への移住を希望しています。

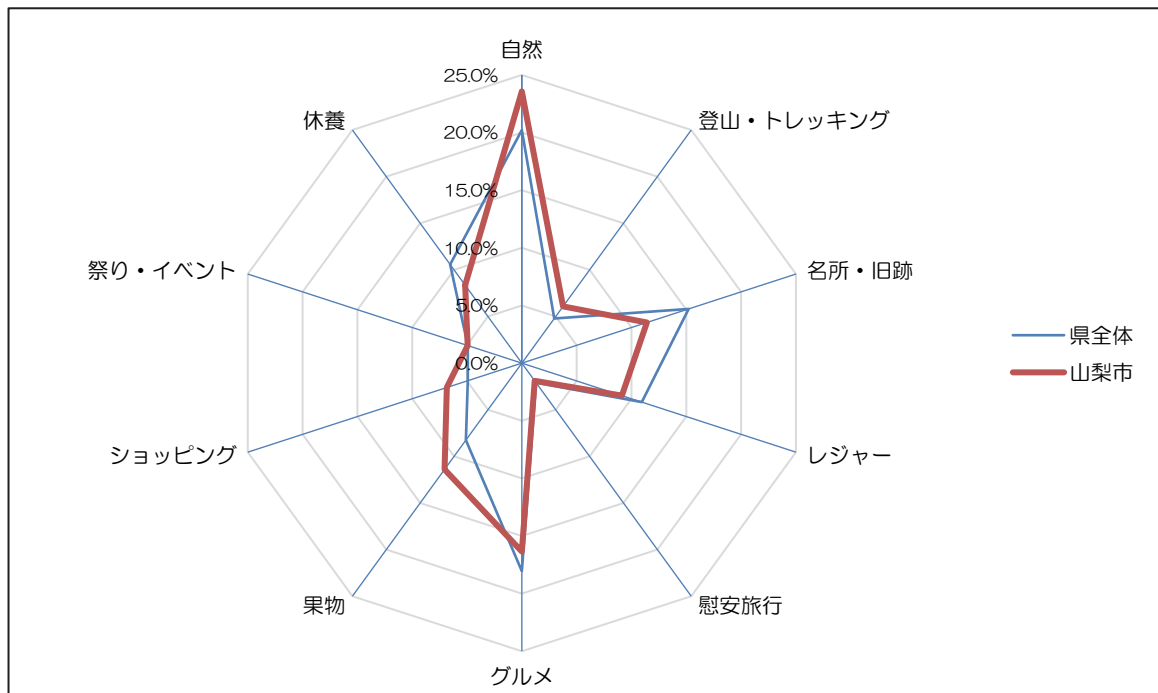


(9)「旅行の主な目的」と「山梨県内で気になる観光地」のクロス集計

アンケート調査結果から「旅行の目的」と「山梨県内で気になる観光地」とのクロス集計を取り、県全体の回答結果と山梨市の回答結果を比較しました。

山梨市を「気になる観光地」として選んだ方は、県全体に比べて、旅行の目的に「自然」「登山・トレッキング」「果物」「ショッピング」と回答する割合が高くなっています。

一方で「名所・旧跡」「レジャー」「休養」と回答する割合は低くなっています。



第5章 山梨市の観光資源分析

1 SWOTによる山梨市の観光資源分析

SWOT分析のフレームワークを用いて、山梨市観光資源の内部環境である「強み（Strength）」「弱み（Weakness）」、外部環境である「機会（Opportunity）」「脅威（Threat）」を分析し、山梨市の観光における課題を明確にします。

強み（内部環境）

- ①首都に近い立地
- ②多くの文化財
- ③笛吹川フルーツ公園、根津記念館などの観光施設
- ④秩父多摩甲斐国立公園、甲武信ヶ岳
- ⑤風光明媚な渓谷や自然豊かな高原
- ⑥室町期の建物
- ⑦国宝清白寺仏殿
- ⑧観光農園や農業体験
- ⑨ワインや甲斐サーモンなどの特産品
- ⑩優良な温泉施設
- ⑪数多くのイベントや行事
- ⑫アニメの聖地
- ⑬標高差を利用したスポーツ大会
- ⑭湖面利用できる乙女湖

弱み（内部環境）

- ①観光産業の人材不足
- ②外国人旅行者への対応不足
- ③観光客の安心安全への対応の遅れ
- ④Wi-Fi環境が未整備
- ⑤観光資源が点在
- ⑥公共交通の不足
- ⑦自然資源が観光消費につながっていない
- ⑧近隣市町村に比べて少ない宿泊施設
- ⑨特徴ある郷土料理がない
- ⑩少子高齢化の進展
- ⑪市内企業数の減少
- ⑫後継者不足
- ⑬市管理施設の老朽化
- ⑭空き家の増加

機会（外部環境）

- ①広域観光連携
- ②情報のデジタルシフトの進展
- ③観光ボランティアガイドの活用
- ④シャインマスカットの生産増加
- ⑤MaaSの進展
- ⑥外国人材受け入れの進展
- ⑦中部横断自動車道の開通
- ⑧「葡萄畑が織りなす風景—山梨県峡東地域—」の日本遺産認定
- ⑨「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」の日本農業遺産認定
- ⑩アウトドアブームの到来
- ⑪団体旅行から個人旅行への転換
- ⑫グリーンゾーン認証制度など安全への関心と担保制度の拡充

脅威（外部環境）

- ①新型コロナウイルス感染症拡大
- ②冬期の観光客が少ない
- ③冬期の観光商品が少ない
- ④旅行者の満足度が低い

※SWOT 分析の項目抽出については次表の出典を参考にしています。

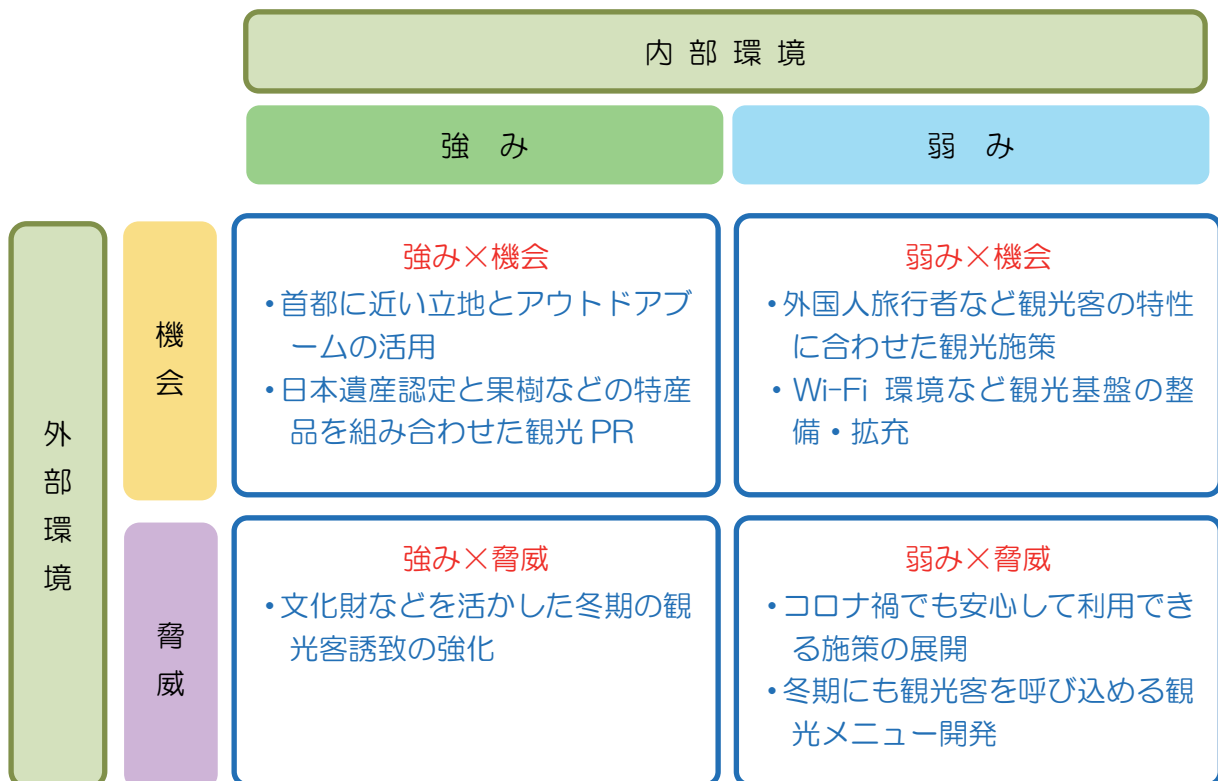
SWOT 分析の項目	出典
少子高齢化の進展	山梨市人口ビジョン
市内企業数の減少	第2期山梨市総合戦略
市管理施設の老朽化	山梨市グランドデザイン
旅行者の満足度が低い	やまなし観光推進計画（県計画）
MaaS の進展	やまなし観光推進計画（県計画）
観光産業の人材不足	やまなし観光推進計画（県計画）

※SWOT 分析とは

対象となる組織等を取り巻く外部環境と、資産やブランド力などの内部環境をプラス面、マイナス面にわけて分析することで、戦略策定や意思決定、資源の最適化などを行うことを目的とする分析手法です。

2 クロスSWOT分析による方向性の導出

SWOT 分析で明確化した「強み」「弱み」「機会」「脅威」の掛け合わせによる方向性の導出を行います。基本方針の方向性を決める参考とします。



第6章 山梨市の観光の課題

山梨市における観光入込客数は、令和2年に新型コロナウイルス感染症拡大の影響で前年から大きく減少しました。また月別の観光入込客数は、冬期にあたる12月から4月が年平均を下回っています。SWOT分析における本市の脅威として「冬期の観光客が少ない」「冬期の観光商品が少ない」が挙げられています。以上のことから、冬期の観光客誘致の必要性が伺えます。

山梨市における観光消費額は「山梨県観光入込客統計調査報告書」に掲載されている一人当たり平均観光消費額に観光入込客数を乗じて算出しています。

令和2年は一人当たり平均観光消費額は上昇しましたが、観光入込客数が減少したため、観光消費額の総額は前年に比べて大幅に減少しています。

観光消費額の増加には、観光入込客数の増加に加えて一人当たり平均観光消費額の向上を図る必要があります。観光客にとってより付加価値の高い観光メニューの開発やPRが重要となります。前計画の評価コメントにおいても、山梨市内で消費を喚起する仕組みづくりが必要とされています。

【課題】

- ・ コロナ禍の影響による観光入込客数の減少への対応
- ・ 冬期の観光入込客数の増加
- ・ 観光消費額の向上
- ・ 冬期の観光メニューの強化と観光客の誘致

前計画期間中に、山梨市を含む峡東地域が「葡萄畑が織りなす風景」として日本遺産に認定され、また「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」として日本農業遺産に認定されていることから、今後、市の観光資源として活かしていくことが期待されています。

【課題】

- ・ 日本遺産認定「葡萄畑が織りなす風景—山梨県峡東地域—」の観光施策への活用
- ・ 日本農業遺産認定「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」の観光施策への活用

本市の北側は「秩父多摩甲斐国立公園」に属する自然・山岳資源の宝庫であり、「甲武信ユネスコエコパーク」に登録されています。

また日本百名山の「甲武信ヶ岳」「金峰山」をはじめ、「乾徳山」や「小檜山」、標高が低く冬季にも比較的登山可能な「棚山」「兜山」など、多種多様な山々を抱えています。

SWOT分析においても本市の強みとして「秩父多摩甲斐国立公園、甲武信ヶ岳」や「風光明媚な溪谷や自然豊かな高原」が挙げられています。

本市の山岳資源は、他市にはない魅力となっています。この山岳資源を活かした観光振興が求められます。

【課題】

- ・山岳資源を活かした観光振興の推進

新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、個人旅行が注目されるようになり、またアウトドア観光が注目されるなど、旅行者の指向に変化が出てきています。SWOT 分析では「機会」として「団体旅行から個人旅行への転換」「アウトドアブームの到来」が挙げられています。併せて前計画の評価からは「観光客のニーズに則したコンテンツを組み合わせた観光メニューの充実」が必要との意見が見られました。

【課題】

- ・アウトドアブームの活用
- ・観光客のニーズに則したコンテンツの組み合わせの充実

前計画では「おうちで山梨市」プレゼント企画の実施等の効果で、Twitter のフォロワー数を 7,000 人から 15,000 人に、また Instagram のフォロワー数を 2,000 人から 5,000 人に増やすことができました。評価コメントの中では、更新頻度を上げるなど、より充実した情報発信が必要とされています。

また、Wi-Fi 環境の整備が進められている一方で、市内のより広い範囲で利用できる環境整備も求められています。

【課題】

- ・SNS 等を活用した充実した情報発信
- ・観光地としての認知度向上
- ・情報のデジタルシフトの活用
- ・市内の広範囲で利用できる Wi-Fi 環境の整備

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、本市はそれほど積極的にインバウンドの受け入れができませんでしたが、新型コロナウイルス感染症収束後は徐々にインバウンドへの対応も行っていかなければなりません。本市は東京オリンピック・パラリンピックに関連して、ドイツウエイトリフティング競技、キルギスパラパワーリフティング競技のホストタウン誘致に成功しています。これらの国との交流経験を今後の山梨市の PR 活動強化に活かしていくことが求められます。

【課題】

- ・ホストタウンの経験を活かした山梨市の PR 活動の強化

SWOT 分析による「本市の弱み」において「公共交通の不足」が挙げられています。また「観光資源が点在」していることも弱みとして挙げられています。

一方で「MaaS¹⁰の進展」が「機会」として認識されていることから、改めて観光と交通の今後の在り方を考えていく必要性があります。

【課題】

- ・公共交通の不足への対応
- ・MaaS の活用

山梨市駅には南北自由通路が新設され、南口広場等の整備が進められる中で、今後もより一層山梨市のゲートウェイとしての機能が期待されます。民間の力も活用し、官民連携による、駅周辺の賑わい創出に努めることが求められます。

【課題】

- ・民間の力も活用した賑わい創出

以上のような「山梨市の観光課題」に対応できる観光施策に取り組みながら、今後の山梨市の観光振興を図っていきます。

¹⁰ 「Mobility as a Service」の略語で、一人ひとりの移動ニーズに対応して複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて、検索・予約・決済等を一括で行い、人々が効率よくかつ便利に使えるようにするサービス

第7章 施策体系と具体的施策

1 施策体系

「山梨市の課題」を元に策定した施策体系に基づき、本市の観光施策を展開していきます。

※網掛けの項目は重点施策とします。

<p>【基本方針1】自然・果樹・文化を活かす観光振興</p> <p>(1)豊かな自然を活用した観光振興</p> <p>(2)景観を軸とした観光メニューの提供</p> <p>(3)アウトドア観光メニューの開発</p> <p>(4)果樹・ワインを活かす観光振興</p> <p>(5)文化財を活用した観光振興</p>
<p>【基本方針2】情報発信の強化と観光基盤の整備</p> <p>(1)観光客のニーズに合わせた情報発信の強化</p> <p>(2)インフラを中心とした観光基盤整備</p> <p>(3)おもてなしの心の醸成</p> <p>(4)インバウンド観光への取組み推進</p> <p>(5)外国人が快適に観光できる環境の整備</p>
<p>【基本方針3】連携による賑わい創出や新しい山梨市の魅力開発</p> <p>(1)他地域、団体との連携による観光振興</p> <p>(2)連携による新しい観光商品開発</p> <p>(3)山梨市の特色を活かした新しい山梨市の魅力開発</p>

2 具体的施策

【基本方針1】自然・果樹・文化を活かす観光振興

本市には、秩父多摩甲斐国立公園などの豊かな自然環境があり、風光明媚な景観を誇っています。この豊かな自然・景観は多くの観光客を呼び込むことのできる山梨市の大変重要な観光資源です。また、コロナ禍においてアウトドア志向が高まり、これら山梨市の自然・景観を活かしたアウトドア観光メニューの開発は、アフターコロナの山梨市観光において重要な資源となります。

また、桃やぶどうなどの果樹栽培が盛んであり、本市への来訪者を引き付ける大きな魅力となっています。また、本市で醸造されたワインは高い評価を得ており、本市の果樹産業やワイン産地としてのブランドイメージアップが期待できます。

本市にある指定・登録文化財は159件となっており、その中には、国宝清白寺仏殿や窪八幡神社本殿など、室町期に建てられた建造物が数多く含まれています。これら歴史的建造物を活用した観光メニューを推進していきます。

(1)豊かな自然を活用した観光振興【重点施策】

具体的施策	実施内容
①森林・温泉・果樹などの資源を活用したウェルネスツーリズムの開発	本市の総面積のおよそ8割を占める森林や豊富な温泉、新鮮な果樹などの資源を生かし、「心身の健康」をテーマにしたウェルネスツーリズムの拠点となるような地域づくりを事業者とともに推進します。また、観光事業者と連携して体験メニューの開発を推進します。
②自然・山岳資源の活用	本市の北部は秩父多摩甲斐国立公園を含む自然・山岳資源の宝庫であり、令和元年に「甲武信ユネスコエコパーク」に登録されています。甲武信ヶ岳、乾徳山、小樽山等、また比較的冬期でも登山しやすい棚山、兜山等もあり、登山愛好家にPRを行い、登山道の整備、年間を通した登山客の誘致、また新たな登山観光需要の開拓を図っていきます。

(2) 景観を軸とした観光メニューの提供

具体的施策	実施内容
①美しいぶどう畑のPRと観光客誘致	日本遺産認定 ¹¹ により改めてその美しさが認識された山梨市のぶどう畑をWEBやイベントをとおして、山梨市のブランドイメージの向上と新たな観光客誘致につなげます。
②乙女高原・乙女湖周辺を活用した観光メニューの開発	乙女高原は初夏のレンゲツツジをはじめ、季節によって様々な花が咲き乱れる天然の花畑となっています。登山やキャンプ、釣り等に訪れる観光客を見込んだ観光活用を図ります。

(3) アウトドア観光メニューの開発【重点施策】

具体的施策	実施内容
①スポーツ観光、山岳観光など魅力的な観光地の開発	風光明媚な景観を持つ本市の特徴を活かして、マラソンやトレイルラン ¹² 、サイクリング等のアウトドアスポーツを活かした観光の強化を図ります。併せてオートキャンプやハイキング等の観光メニューの充実を図ります。
②スポーツ観光プロモーションの強化	フルーツラインサイクリングコースや大弛峠サイクリングコースをPRするなど、山梨市におけるスポーツ観光プロモーションの強化を図ります。
③釣り・バーベキュー・サイクリングなどアウトドアコンテンツの開発とPR推進	コロナ禍における人との接し方の変化によって、家族での旅行やアウトドアなどへの関心が高まっています。本市の豊かな自然景観を活かしたアウトドアコンテンツなどの観光メニューの開発やPRを推進し、観光客誘致に繋がります。

¹¹ 峡東地域のぶどう畑の景観の歴史やその魅力を語ったストーリー「葡萄畑が織りなす風景—山梨県峡東地域—」が日本遺産に認定

¹² 未舗装の起伏ある自然の山道を走るタイムレース

(4)果樹・ワインを活かす観光振興【重点施策】

具体的施策	実施内容
①日本農業遺産と観光フルーツ農園の連携	日本農業遺産認定 ¹³ の積極的なPRと美しい眺望が楽しめる観光フルーツ農園との連携により、山梨市の果樹や加工品の魅力を発信し、山梨市の果樹ブランドのイメージの向上と新たな観光客誘致に繋がります。
②都市農村交流の推進	首都から100km圏内の立地を活かした観光フルーツ農園や農作業体験等、都市住民や企業と地域住民との交流を活かした着地型観光 ¹⁴ を推進します。
③ワインリゾート構想の推進	山梨県や隣接自治体と協力し、市内の個性的なワイナリーの情報発信などにより、ワインを軸にした広域の長期滞在型リゾートを目指します。これにより、集客力のある富士五湖方面からの周遊を促進します。

(5)文化財を活用した観光振興

具体的施策	実施内容
①「山梨市文化財保存活用地域計画 ¹⁵ 」の推進	同計画を観光分野にも活用することで、文化財を活かした魅力ある地域づくりを推進していきます。特に文化財が集中するエリアの周遊ルート設定や各種サインの設置など来訪者が見学しやすい環境を整備していきます。さらに文化財の保存・活用に携わる人々を増やすしくみを構築し、文化財の磨き上げや修景、ガイドの育成などに活かしていきます。
②フィールドミュージアム ¹⁶ 等を通じた文化財のPRの推進	文化財やフィールドミュージアムに関する情報を、WEBやSNS等を通じて広く発信していきます。またAR ¹⁷ やデジタルミュージアムなどを通じて、誰でも文化財やその歴史環境などに関する詳細情報にアクセスできるしくみの構築を目指します。
③山梨市の歴史文化の特徴を活かした観光資源の活用	下記に代表される特徴を持つ事柄について、テーマやストーリーなどを設定し、それらを観光資源としても活用していきます。 <ul style="list-style-type: none"> ・山岳信仰に関する遺跡や古道、それらに影響を受けた夢窓疎石などの足跡。 ・武田信玄とその祖信時流武田氏に関する文化財。 ・中山間地における切妻民家などの伝統的家屋、丸石道祖神など多様な石造物と道祖神祭礼。 ・根津嘉一郎の業績など、地域における近代化遺産。

¹³ 「盆地に適応した山梨の複合的果樹システム」が日本農業遺産に認定

¹⁴ 地域ならではの観光資源を活用した観光商品や体験プログラムを地域（着地）側が企画・運営する観光スタイル

¹⁵ 文化財の保存・活用の基本計画として令和4年度策定予定

¹⁶ 歴史・文化・自然などの地域資源を展示物として、地域全体を「野外博物館＝フィールドミュージアム」に見立てた取り組み

¹⁷ 「拡張現実」のこと。スマートフォンやARグラス越しで見ることで、現実世界に画像や動画などのデジタルコンテンツを重ねることができる技術

【基本方針2】情報発信の強化と観光基盤の整備

「観光客に向けた充実した情報発信」や「観光基盤の整備」などは、山梨市の観光振興における重要な課題です。観光客が情報を得やすい環境や、安心して観光を楽しめるよう、インフラ環境も含めて整備を進めて行かなければなりません。併せて、観光客を迎える市民の心も大切です。「おもてなしの心をおみやげに」のキャッチフレーズのもと、市民一人ひとりが観光客を温かくおもてなしできる環境を整えていきます。また「公共交通の不足」も本市の弱みの一つとして挙げられており、対応が求められる課題です。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、本市はそれほど積極的にインバウンドの受け入れができませんでしたが、アフターコロナを見据えた今後5年間の中で、少しずつインバウンド受け入れ体制の整備を進め、山梨市のPR活動の強化を図っていきます。

(1)観光客のニーズに合わせた情報発信の強化【重点施策】

具体的施策	実施内容
①パンフレット、サイン等の多言語化	パンフレット、サイン、ホームページや SNS(Twitter や Instagram 等)など、外国人観光客向けに「二次元コード」等を活用し、観光情報の多言語化を推進します。
②SNS を有効に活用した情報発信	観光協会と連携し、SNS を活用した事業の企画や観光情報の発信を強化し、フォロワー数増加とファンコミュニティ ¹⁸ の組成を図ります。
③本市の PR キャンペーンの促進	県外のイベントなどで本市のPRリーフレットの配布や特産品の販売を行うなど、PR キャンペーンを促進します。

(2)インフラを中心とした観光基盤整備

具体的施策	実施内容
①観光インフラの整備・充実	観光資源を活用するために必要なインフラの整備・拡充を図ります。また、本市の景観計画やサイン方針、バリアフリー化などを踏まえ、観光案内標示の整備・充実に努め、来訪者が安全で快適に過ごすことができる観光地づくりを目指します。
②インターネット環境の整備	地域住民や観光客が自由に利用できる無料 Wi-Fi スポット環境整備を推進します。
③ユニバーサルデザイン ¹⁹ の推進	ユニバーサルデザインの考え方を活用し、外国人観光客、高齢者、障がい者、子どもなど、誰にとっても使いやすいハード・ソフトの整備充実を図ります。

¹⁸ 特定の個人や団体などのファンが形成するコミュニティやファンの集団の総称

¹⁹ 文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、障害・能力の如何を問わず、誰もが利用できる施設・製品・情報の設計(デザイン)

④MaaS を活用した観光振興推進	県の進める MaaS 構想は、観光における公共交通不足の解消につながることを期待されます。本市への訪問機会の増加や観光客の利便性向上につながるよう、県と連携した観光施策展開を図っていきます。
-------------------	---

(3)おもてなしの心の醸成

具体的施策	実施内容
①市全体で観光客をもてなす環境の整備	「おもてなしの心をおみやげに」をキャッチフレーズに、市民一人ひとりが山梨市の代表であるという意識を持ち、市民や民間事業者、観光関連団体、行政が一体となり、市全体で観光客を温かくおもてなしできる環境を整えます。
②山梨市民への観光資源認知度アップ	市民向けの情報発信や体験イベントの実施、試食会の実施など、市民が山梨市の観光の魅力を享受できる機会を創出します。

(4)インバウンド観光への取組み推進

具体的施策	実施内容
①果樹や山岳、日本文化などを軸にした外国人にも楽しめる観光メニューの開発	果樹や山岳、文化財など、山梨市の特徴を活かして、日本人のみならず外国人にも楽しめる観光メニューを開発します。併せて外国人がストレスなく快適に山梨市の観光を楽しむ環境づくりに努めていきます。
②ホストタウン誘致をきっかけとした山梨市の PR 活動の強化	ドイツ・キルギスの大使館などと連携を図り、イベントの誘致及び都内での PR 活動を行うことにより、山梨市の認知度向上を図ります。

(5)外国人が快適に観光できる環境の整備

具体的施策	実施内容
①パンフレット、サイン等の多言語化【再掲】	パンフレット、サイン、ホームページや SNS など、外国人観光客向けに「二次元コード」等を活用し、観光情報の多言語化を推進します。
②インターネット環境の整備【再掲】	地域住民や観光客が自由に使用できる無料 Wi-Fi スポット環境整備を推進します。

【基本方針3】連携による賑わい創出や新しい山梨市の魅力開発

山梨市の玄関口である山梨市駅を中心に、市全体の賑わい形成を行っていくためには、民間の力を活用したり、他地域や団体との連携を行っていくことが不可欠です。

これからの山梨市の観光振興を図るため、新しい山梨市の魅力を発信できる観光メニューの開発が求められます。本市には数多くの観光資源があります。これらの観光資源を地域全体で連携させ、ウィズコロナ・アフターコロナの時代を見据えた新しい観光メニューを開発し、観光振興に繋げていきます。

併せて県が推進している「アウトドアサウナ」を、風光明媚な「乙女湖」で実現することで、冬期にも観光客を呼べる観光メニューとして推進していきます。

(1)他地域、団体との連携による観光振興

具体的施策	実施内容
①民間との連携による山梨市駅周辺の賑わい創出	山梨市の玄関口である駅周辺に、民間の力も活用しながら賑わい創出に努めます。
②他地域・異種団体との広域連携体制の強化	本市が加盟している関東観光広域連携事業推進協議会を通して、他自治体や各種団体との連携を強化するとともに、都県をまたいだ広域連携体制の推進を図ります。
③隣接自治体との連携体制の強化	甲府市、甲州市、笛吹市、秩父市等、隣接自治体との相互情報発信や連携体制を推進するため、積極的な協議を行う。
④山梨市観光協会のDMO化等の調査研究	民間企業・市民団体等との協働を強化するため、山梨市観光協会のDMO化等の調査研究を図る。

(2)連携による新しい観光商品開発

具体的施策	実施内容
①観光協会等との連携による着地型旅行商品開発	市と観光協会は、旅行会社との連携を図り、山梨市の特徴を活かした着地型旅行商品開発を促進します。
②観光協会との連携による新たな観光商品の開発	市は、観光協会との連携により、特色あるグルメ商品やアクティビティなど、新たな観光商品開発を促進します。

(3) 山梨市の特色を活かした新しい山梨市の魅力開発

具体的施策	実施内容
①アウトドアサウナの活用	県では、県内のキャンプ場や宿泊施設を「アウトドアサウナ」の聖地としてPRしようとしています。本市にはエメラルドグリーン湖面が広がる乙女湖があります。乙女湖とアウトドアサウナを連携した新たな観光メニューの開発を行い、冬期の観光客誘致に繋がります。
②既存の観光資源を有機的に結合させたメニューの開発	西沢渓谷や温泉資源など、市内の観光資源を点ではなく線で捉えることにより、エリアごとに特色を見出した観光ルートを開発し、山梨市の新たな魅力を発掘します。
③市内宿泊施設を利用したワーケーションの推進	市内の温泉旅館や民宿、リゾートホテル等に電源やWi-Fi設備などテレワークに適した環境整備を提案し、ウイズコロナ時代の新たな働き方であるワーケーション利用を促進し、年間を通じた観光客誘致に繋がります。
④市民農園 ²⁰ 等を活用した観光振興の展開	市民農園等を活用し、観光客誘致につながる仕組みづくりを検討していきます。



笛吹川フルーツ公園

²⁰レクリエーション、高齢者の生きがいづくり、生徒・児童の体験学習などの多様な目的で、農家でない方々が小さな面積の農地を利用して自家用の野菜や花を栽培する農園のこと

第8章 評価指標

本計画は、計画の最終年度である令和8年を目標年として、以下に示す5つの評価指標を用いて運用・評価を進めていきます。

観光庁は新型コロナウイルス感染症の影響に鑑み、令和3年3月に計画期間が満了となった「観光立国推進基本計画」の改定を先送りすることとしました。そのため令和3年度以降の具体的な観光プランは現時点では示されておりません。

また山梨県では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえて「山梨県総合計画 2021年改訂版」を策定しました。総合計画におけるアクションプランでは、平成30年を基準年として令和4年を目標年とした数値目標を設定しています。2021年改訂版ではこの目標数値の変更は行われていないため、令和4年以降も同じ目標値が設定されると推定し、本市の評価指標の参考値といたしました。

1 山梨市観光入込客数

観光入込客数は、観光地の統計指標として最も重要な指標であり、山梨市の観光入込客数を捉えることで、本市の観光地としての量的活性化の度合いを測ることや他地域との比較を行うことが可能となります。観光入込客数は本計画で実施するすべての施策に関連する指標となります。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年の山梨市における観光入込客数は、約95.7万人に減少しました。計画期間である令和4年度以降は、ワクチン接種が進むこと等に鑑み、段階的に観光入込客数が増加していくと見込んでいます。

県のアクションプランでは、観光入込客数の数値目標は設けられていません。そこで、本市では、計画最終年度となる令和8年の目標を、新型コロナウイルス感染症拡大以前の平成27年から平成30年の実績値の平均である1,367,161人と設定しました。

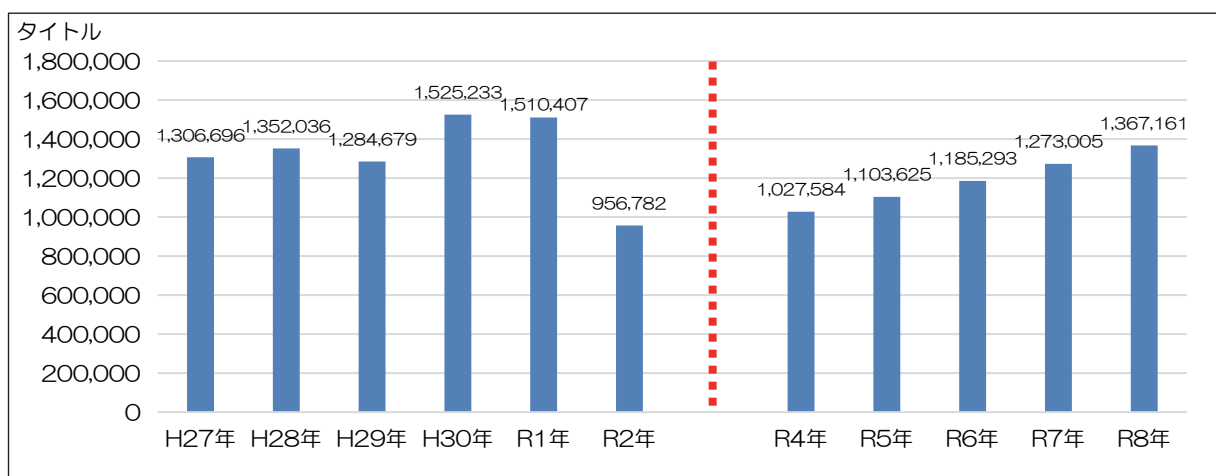


図15 山梨市観光入込客数の推移

出典：山梨県観光入込客数統計調査報告書

2 山梨市観光消費額

観光消費額は、山梨市を訪れた観光客が本市に与える質的、特に経済的な影響を図ることができる指標です。観光による山梨市の活性化の度合いを測る指標としては、観光入込客数よりも重要な指標と考えることができます。観光消費額を増加させるためには、観光入込客数の増加に加えて、一人当たり観光消費額の向上を図っていく必要があります。観光消費額は観光入込客数と同様に本計画で実施するすべての施策に関連する指標となりますが、特に基本方針2の「インバウンド観光への取組み推進」、基本方針3との関連性が高い指標です。

山梨市の観光消費額は「山梨県観光入込客統計調査報告書」に掲載されている一人当たり平均観光消費額に観光入込客数を乗じて算出しています。

令和2年は一人当たり平均観光消費額は上昇しましたが、観光入込客数が減少したため、観光消費額の総額は前年に比べて大幅に減少しています。

県が改訂した総合計画アクションプランでは、一人あたり平均観光消費額を平成30年の10,616円から令和4年に12,000円(113%)にするとしています。本市においても県の方針を踏まえて、コロナ禍の影響の収束が期待できる令和8年の目標を、平成30年実績の113%となる18,297百万円に設定しました。

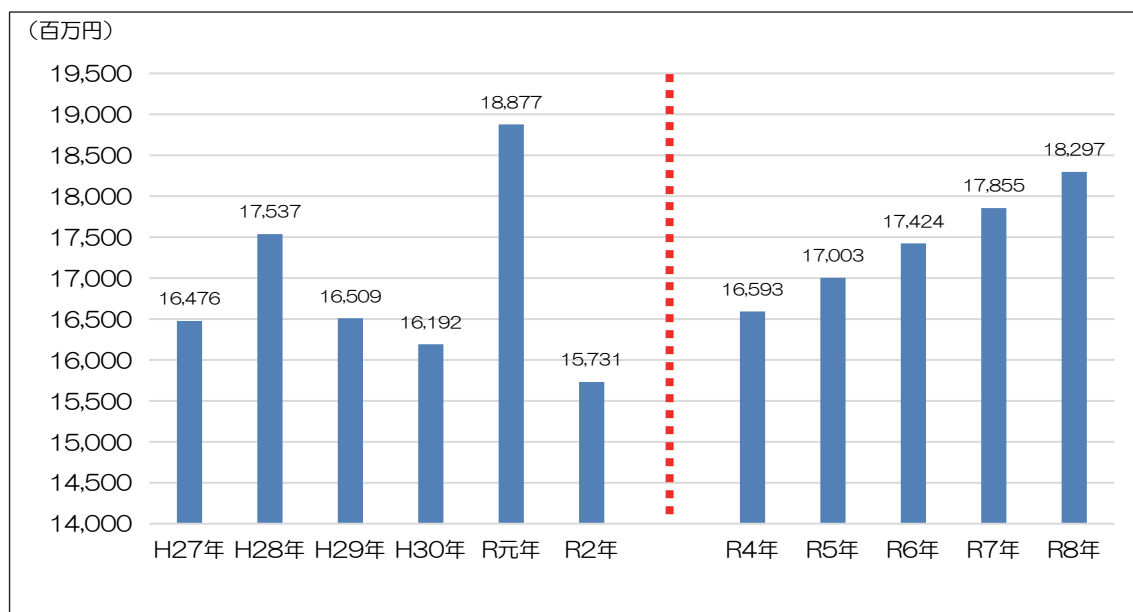


図16 山梨市観光消費額の推移

出典：山梨県観光入込客統計調査報告書の一人当たり平均観光消費額から算出

3 外国人宿泊者数

山梨市のインバウンド観光の活性化度を図るため、外国人宿泊者数を指標とします。新型コロナウイルス感染症収束後は、山梨県全体で外国人観光客が急増すると思われます。インバウンド観光では、飲食や宿泊、土産品の購入など市内観光における多くの業種での経済効果が期待できます。この指標は、基本方針2の「インフラを中心とした観光基盤整備」「インバウンド観光への取組み推進」との関連性が高い指標です。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、日本を訪れる外国人観光客は大幅に減少し、山梨市においても令和2年の外国人宿泊者数は、ピークの平成29年の1,492人に対して令和2年には114人にまで減少しています。

計画最終年となる令和8年の目標値は、新型コロナウイルス感染症拡大以前の平成27年から平成30年の実績値の平均である922人と設定しました。

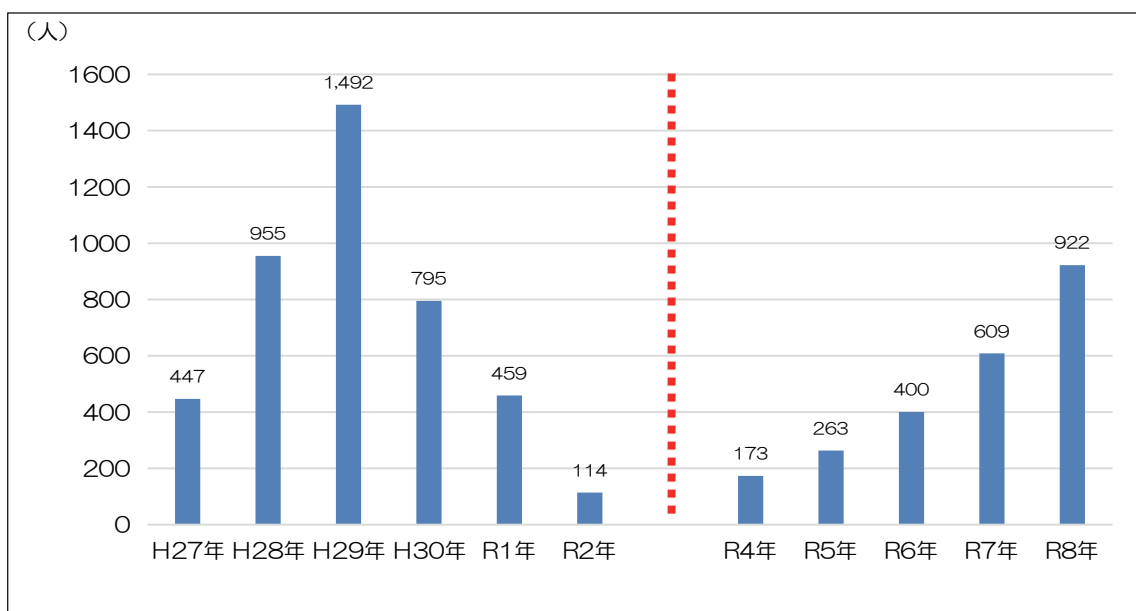


図17 外国人宿泊者数の推移

出典：山梨県観光入込客数統計調査報告書

4 山梨市月別観光入込客数（12月から4月の平均値）

この指標における山梨市月別観光入込客数は、冬期に当たる12月から4月の観光入込客数の平均値としています。第2章「山梨市観光の現状」に示したように、本市の観光入込客数は夏期に比べて冬期の落ち込みが大きくなっています。これは冬季に観光客を呼び込めるような観光資源の開発やPRが必要であることを表しています。この指標は、基本方針3の「山梨市の特色を活かした新しい山梨市の魅力開発」との関連性が高い指標です。

令和4年度以降は、新型コロナウイルス感染症の拡大が収束方向に向かうことが期待されることと、年間を通して観光客誘致が期待できる新しい観光メニューの開発が奏功することに鑑み、12月から4月の観光入込客数は徐々に増加すると見込んでいます。

計画最終年となる令和8年の目標値は、年間の観光入込客数の目標値である1,367,161人の月平均値である113,930人と設定しました。

評価指標（12月～4月までの観光入込客数の平均値）

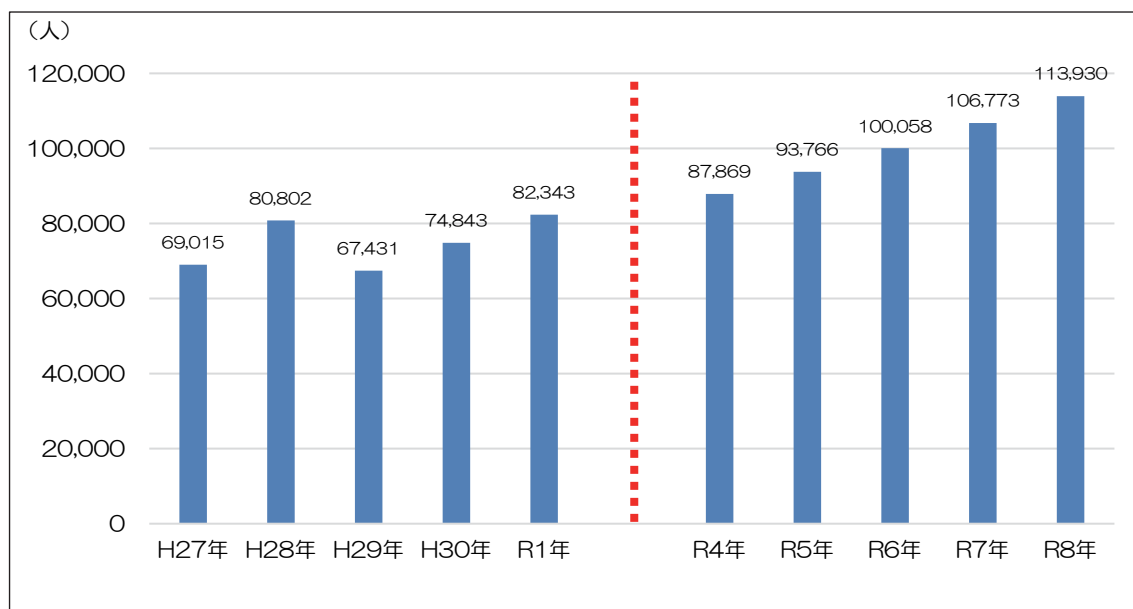


図18 山梨市月別観光入込客数（12月から4月の平均値）

出典：山梨県観光入込客数統計調査報告書から算出

5 SNS フォロワー数

SNS フォロワー数は、山梨市への関心の高さを把握することが可能となる指標です。また今まで山梨市を訪れたことのない人に対する山梨市の知名度を理解する上で重要となる指標です。この指標は、基本方針 2 の「情報発信の強化と観光基盤の整備」との関連性が高い指標となります。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、山梨市を訪れる観光客が減少する中、市と観光協会が連携して行った「おうちで山梨市」プレゼント企画等の施策が奏功し、Twitter のフォロワー数を平成 27 年実績の 7,000 人から令和 2 年には 15,000 人へ、また Instagram のフォロワー数を 2,000 人から 5,000 人に増やすことができました。

県の総合計画アクションプランの中では「富士の国やまなし観光ネット」のアクセス数を、平成 30 年の 944 万 PV²¹から令和 4 年に 1,200 万 PV(127%)にするとしています。

本市においても県の方針を踏まえて、令和 8 年の目標を R2 年の 127%となる Twitter フォロワー数 19,050 人、Instagram フォロワー数 6,350 人と設定しました。

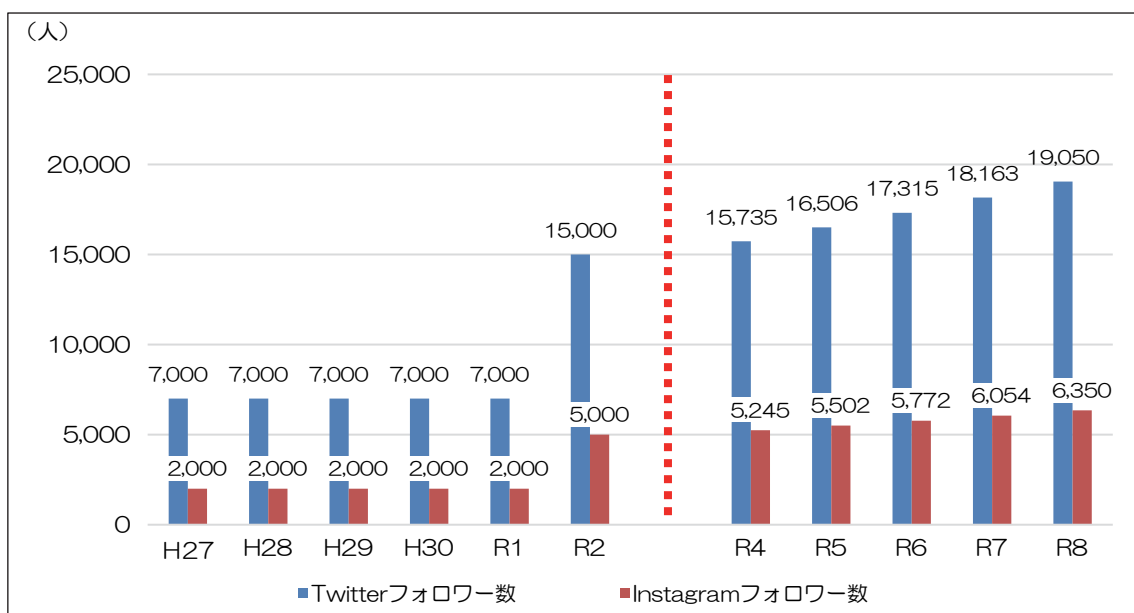


図19 SNS フォロワー数の推移

出典：山梨市観光課集計

²¹ 「ページビュー」、Web サイトのページが開かれた回数のこと

第9章 計画運営方針及び運営方法

(1) 計画運営方針

本計画の運用にあたっては、以下の手順で検証を行います。

- ①運用状況検証シートを用いて、各担当課において基本方針及び具体的施策ごとに進捗度と施策の実施状況を確認します。
- ②作成されたシートを観光課がまとめ、庁内委員から構成される「山梨市観光振興推進会議」で運用状況の検証を行います。併せて、必要に応じて施策内容の追加・削除等、また評価指標の見直しを検討します（年1回程度）。
- ③「山梨市観光振興推進会議」の検証結果を踏まえ、外部委員から構成される「山梨市観光振興計画運営委員会（仮称）」で運用状況の把握及び検証を行います。併せて、必要に応じて施策内容の追加・削除等、また評価指標の見直しを検討します（年1回程度）。

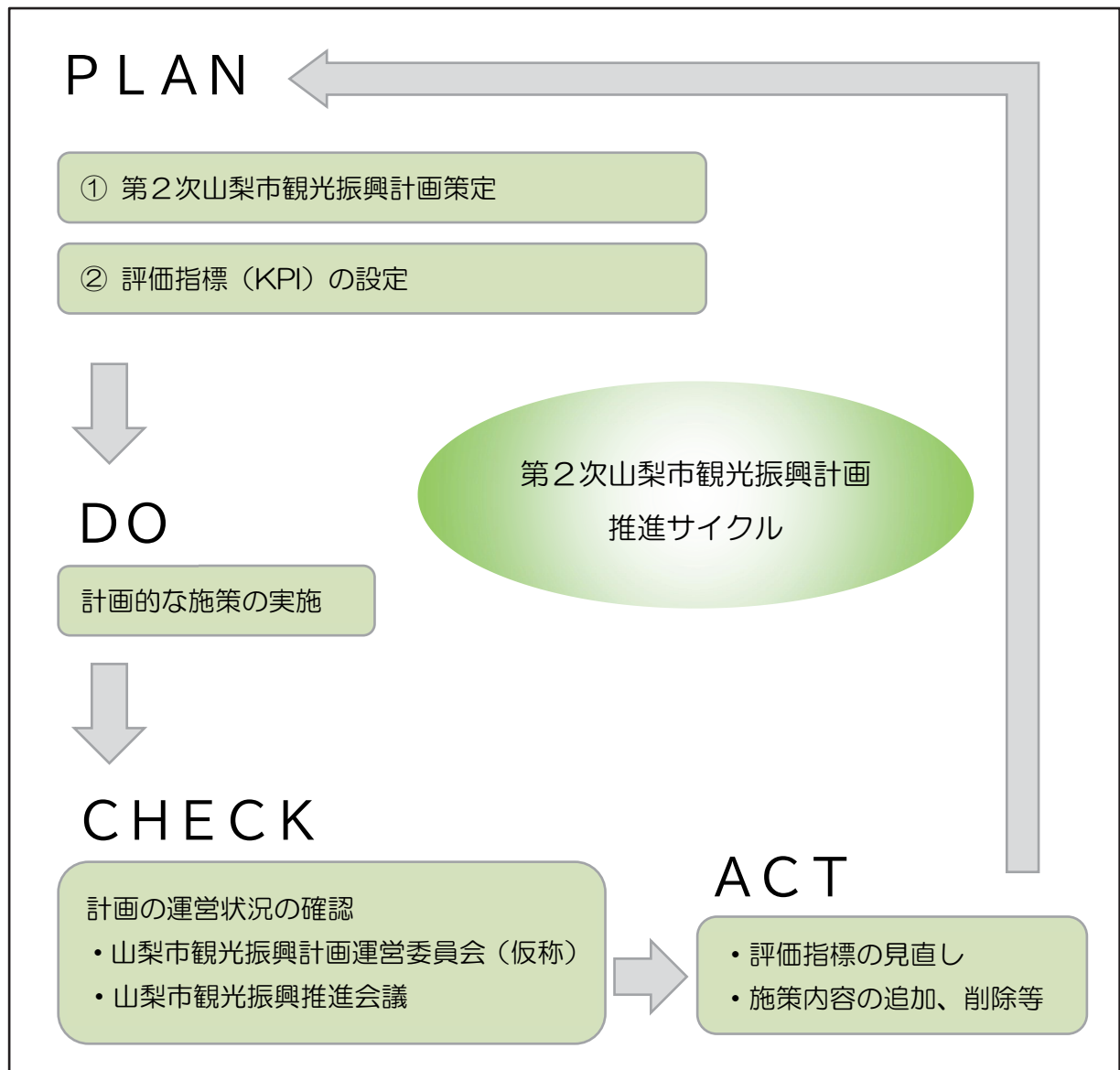
外部委員で構成される「山梨市観光振興計画運営委員会（仮称）」が運用状況の把握・検証を行うことで、観光振興計画の実施状況を庁外に伝える意味も含めています。

計画最終年度においては、外部委員で構成される評価委員会を設置し、5年間の計画期間を通じた総合的な評価を行うことも予定しています。



ぶどう畑

(2)計画運営方法 (PDCA)



【参考】

PDCA サイクルは、PLAN (計画) ・DO (実行) ・CHECK (評価) ・ACT (対策・改善) の検証型プロセスを繰り返し回すことで、業務の改善を行うとともに、マネジメントの品質を高めようという考え方です。

第10章 参考資料

1 第2次山梨市観光振興計画策定委員会委員名簿

1	公立大学法人 山梨県立大学教授		国際政策学部 国際コミュニケーション学科	吉田 均
2	山梨市観光協会会長	山梨	(有)ピーチ専科ヤマシタ	山下 一公
3	山梨市観光協会 副会長・支部長	三富	NPO山梨観光振興会	雨宮 巧
4	山梨市観光協会 副会長・支部長	牧丘	甲斐屋農場	廣瀬 賢
5	山梨市観光協会 副会長・部会長	山梨	早川製菓	早川 良一
6	山梨市商工会会長		有限会社YEC米倉電気	米倉 仁
7	JAフルーツ山梨組合長			中澤 昭
8	一般公募		会社員	内田 瑠美
9	一般公募		会社員	田中 友悟
10	一般公募		学生	今村 真由
事務局	観光課長			角田 弘樹
	観光企画担当リーダー			土橋 朋弘
	観光企画担当			長谷川 誠

敬称略

2 山梨市観光振興推進会議委員名簿

	所属	役職	氏名	関連性
1	政策秘書課	副市長	古屋 博敏	議長
2	政策秘書課	統括監	守屋 裕史	観光課担当
3	政策秘書課	課長	日野原 大城	総合計画
4	地域資源開発課	課長	磯村 賢一	ランドデザイン
5	財政課	課長	古屋 健司	財政面
6	商工労政課	課長	大沢 和洋	商業関係・販路
7	農林課	課長	中村 裕機	観光資源・農産物
8	生涯学習課	課長	中村 直喜	観光資源
9	都市計画課	課長	古屋 亨	観光拠点
10	環境課	課長	羽田 エミ	ユネスコエコパーク
事務局	観光課	課長	角田 弘樹	
			土橋 朋弘	観光企画担当リーダー
			長谷川 誠	観光企画担当

敬称略

3 策定経緯

第1回 山梨市観光振興推進会議	
令和3年8月12日	<ul style="list-style-type: none"> 山梨市の観光の現状について 第2次山梨市観光振興計画（素案）について
第1回 第2次山梨市観光振興計画策定委員会	
令和3年8月19日	<ul style="list-style-type: none"> 山梨市の観光の現状について（書面開催）
第2回 第2次山梨市観光振興計画策定委員会	
令和3年10月19日	<ul style="list-style-type: none"> 委員の自己紹介 第1回策定委員会の各委員からの意見等について 第2次山梨市観光振興計画（素案）について
第2回 山梨市観光振興推進会議	
令和3年11月26日	<ul style="list-style-type: none"> 第2次山梨市観光振興計画（案）について
第3回 第2次山梨市観光振興計画策定委員会	
令和3年12月10日	<ul style="list-style-type: none"> 第2次山梨市観光振興計画（素案）に対する委員からのご意見とその対応方法について 施策体系と具体的施策について 評価指標について 推進体制及び推進方法について
第3回 山梨市観光振興推進会議	
令和4年1月12日	<ul style="list-style-type: none"> 第2次山梨市観光振興計画（最終案）について
第4回 第2次山梨市観光振興計画策定委員会	
令和4年1月17日	<ul style="list-style-type: none"> 第2次山梨市観光振興計画（最終案）について パブリックコメントについて 市長報告について
パブリックコメント	
令和4年2月1日～ 2月18日	<ul style="list-style-type: none"> 意見は特になし
市長への報告会	
令和4年3月30日	<ul style="list-style-type: none"> 第2次山梨市観光振興計画の策定報告

第2次山梨市観光振興計画

令和4年3月

山梨市観光課

〒405-8501

山梨県山梨市小原西 843

TEL : 0553-22-1111 (代表)

FAX : 0553-23-2800